

令和5年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	神奈川県		職員の状況（※7）				区分		令和5年度(千円)	令和4年度(千円)	区分	令和5年度(千円・%)	令和4年度(千円・%)											
			特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引	翌年度に繰越すべき財源	実質収支	単年度収支	積立金	繰上償還金	積立金取崩し額	実質単年度収支								
グループ	B			知事	1	14,500	2,251,237,949	2,207,423,640	43,814,309	20,876,468	22,937,841	-3,792,639	4,706,940	0	439	913,862								
	人口	令和2年国調(人)		9,237,333	副知事	3	11,600	2,539,155,772	2,492,642,650	46,513,122	19,782,642	26,730,480	18,422,194	4,205,106	0	54,725,549	-32,098,249							
		平成27年国調(人)		9,126,209	教育長	1	9,500																	
		増減率（%）		1.2	議会議長	1	12,000																	
	住民基本台帳人口（※6）	令和06.01.01(人)		9,208,688	議会副議長	1	10,800																	
うち日本人(人)		8,948,525	議会議員	103	9,700																			
令和05.01.01(人)		9,212,003	一般職員等（※5）	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円) <td>基準財政収入額</td> <td>基準財政需要額</td> <td>標準税収入額等</td> <td>経常経費充当一般財源等</td> <td>歳入一般財源等</td> <td>地方債現在高</td> <td>うち公的資金</td> <td>地方債現在高（臨時財政対策債除き）</td> <td>債務負担行為額（支出予定額）</td> <td>収益事業収入</td> <td>定額運用基金</td> <td>土地開発基金</td> <td rowspan="4">積立金現在高</td> <td>財政調整基金</td> <td>減債基金</td> <td>その他特定目的基金</td>	基準財政収入額	基準財政需要額	標準税収入額等	経常経費充当一般財源等	歳入一般財源等	地方債現在高	うち公的資金	地方債現在高（臨時財政対策債除き）	債務負担行為額（支出予定額）	収益事業収入	定額運用基金	土地開発基金	積立金現在高	財政調整基金	減債基金	その他特定目的基金	
うち日本人(人)		8,972,702		一般職員	11,172	35,795,088	3,204	949,213,938	903,628,033	1,101,695,318	1,202,565,719	1,366,316,037	1,889,641,724	3,073,437,909	332,962,885	1,306,389,331	240,798,037	8,933,966	-		-	70,891,529	56,174,494	249,523,460
増減率（%）		-0.0		うち消防職員	-	-	-	1,043,649,683	1,146,727,943	1,366,316,037	1,410,890,151	1,937,154,439	3,227,799,513	335,166,509	1,381,355,171	201,677,603	10,120,282	-	-		66,185,028	55,705,550	219,256,828	
うち日本人(%)	-0.3	うち技能労務職員		250	751,000	3,004	1,043,649,683	1,146,727,943	1,366,316,037	1,410,890,151	1,937,154,439	3,227,799,513	335,166,509	1,381,355,171	201,677,603	10,120,282	-	-	66,185,028		55,705,550	219,256,828		
面積（km ² ）	2,416			警察官	15,684	51,365,100	3,275	1,202,565,719	1,146,727,943	1,366,316,037	1,410,890,151	1,937,154,439	3,227,799,513	335,166,509	1,381,355,171	201,677,603	10,120,282	-	-	66,185,028	55,705,550	219,256,828		
人口密度（人/km ² ）	3,811			教育公務員	23,426	80,020,957	3,416	1,202,565,719	1,146,727,943	1,366,316,037	1,410,890,151	1,937,154,439	3,227,799,513	335,166,509	1,381,355,171	201,677,603	10,120,282	-	-	66,185,028	55,705,550	219,256,828		
世帯数（世帯）	4,223,706			臨時職員	2,813	8,253,342	2,934	1,889,641,724	1,937,154,439	1,889,641,724	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	-	-	66,185,028	55,705,550	219,256,828		
				合計	53,095	175,434,487	3,304	1,889,641,724	1,937,154,439	1,889,641,724	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	1,937,154,439	-	-	66,185,028	55,705,550	219,256,828		
				ラスバイレス指数	100.0			債務負担行為額（支出予定額）	240,798,037	201,677,603														

一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業（法適）の一覧	公営企業（法非適）の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧						
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	項番	組合等名	項番	団体名
(1)	一般会計	(11)	水道事業会計	(12)	電気事業会計	(18)	神奈川県内広域水道企業団	(18)	神奈川県内広域水道企業団	(20)	（一財）神奈川県厚生福利振興会
(2)	公債管理特別会計			(13)	公営企業資金等運用事業会計	(19)	神奈川県川崎競馬組合	(19)	神奈川県川崎競馬組合	(21)	（地独）神奈川県立産業技術総合研究所
(3)	公営競技収益配分金等管理会計			(14)	相模川総合開発共同事業会計					(22)	（株）湘南国際村協会
(4)	地方消費税清算会計			(15)	酒匂川総合開発事業会計					(23)	（公財）宮ヶ瀬ダム周辺振興財団
(5)	水源環境保全・再生事業会計			(16)	流域下水道事業会計					(24)	（公財）かながわ国際交流財団
(6)	市町村自治振興事業会計			(17)	国民健康保険事業会計					(25)	（公財）神奈川文学振興会
(7)	恩賜記念林業振興資金会計									(26)	（公財）神奈川芸術文化財団
(8)	林業改善資金会計									(27)	（公財）かながわ健康財団
(9)	沿岸漁業改善資金会計									(28)	（公財）神奈川県生活衛生営業指導センター
(10)	災害救助基金会計									(29)	（公財）神奈川県都市整備技術センター

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
※5：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
※6：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※7：職員の状況については、調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・％）					道府県税の状況（単位 千円・％）				歳出の状況（単位 千円・％）						
区分		決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
地方税		1,349,970,733	60.0	1,025,691,968	75.2	普通税	1,349,755,826	100.0	30,131,777	議会費	3,632,344	0.2	-	3,631,974	
地方譲与税		176,942,020	7.9	176,942,020	13.0	法定普通税	1,349,755,826	100.0	30,131,777	総務費	190,565,140	8.6	9,458,218	170,263,919	
地方揮発油譲与税		1,581,893	0.1	1,581,893	0.1	道府県民税	400,929,952	29.7	12,125,467	民生費	523,687,280	23.7	6,969,032	483,857,764	
特別とん譲与税		-	-	-	-	個人均等割	8,969,744	0.7	1,486,574	衛生費	89,384,435	4.0	2,644,892	40,322,253	
石油ガス譲与税		41,366	0.0	41,366	0.0	所得割	316,296,077	23.4	3,016,429	労働費	5,467,438	0.2	350,347	3,900,691	
自動車重量譲与税		979,818	0.0	979,818	0.1	法人均等割	7,739,754	0.6	-	農林水産業費	27,090,863	1.2	12,513,383	17,425,701	
航空機燃料譲与税		-	-	-	-	法人税割	18,743,938	1.4	7,622,464	商工費	48,819,742	2.2	6,637,891	33,490,461	
森林環境譲与税		149,841	0.0	149,841	0.0	利子割	938,238	0.1	-	土木費	122,105,398	5.5	94,657,561	37,994,602	
特別法人事業譲与税		174,189,102	7.7	174,189,102	12.8	配当割	22,875,549	1.7	-	警察費	199,092,206	9.0	10,104,744	186,411,788	
市町村たばこ税都道府県交付金		-	-	-	-	株式等譲渡所得割	25,366,652	1.9	-	消防費	-	-	-	-	
地方特例交付金等		4,306,970	0.2	4,306,970	0.3	事業税	343,562,261	25.4	18,006,310	教育費	389,469,807	17.6	26,373,473	274,903,752	
地方特例交付金		4,306,970	0.2	4,306,970	0.3	個人分	20,615,325	1.5	-	災害復旧費	549,138	0.0	-	230,483	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金		-	-	-	-	法人分	322,946,936	23.9	18,006,310	公債費	313,412,861	14.2	-	299,247,039	
地方交付税		153,816,946	6.8	152,710,174	11.2	地方消費税	423,833,146	31.4	-	諸支出金	-	-	-	-	
普通交付税		152,710,174	6.8	152,710,174	11.2	不動産取得税	31,710,304	2.3	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-	
特別交付税		1,066,357	0.0	-	-	道府県たばこ税	9,824,145	0.7	-	利子割交付金	548,722	0.0	-	548,722	
震災復興特別交付税		40,415	0.0	-	-	ゴルフ場利用税	1,611,855	0.1	-	配当割交付金	13,570,146	0.6	-	13,570,146	
(一般財源計)		1,685,036,669	74.8	1,359,651,132	99.6	軽油引取税	39,748,170	2.9	-	株式等譲渡所得割交付金	15,074,492	0.7	-	15,074,492	
交通安全対策特別交付金		1,129,338	0.1	1,129,338	0.1	自動車税	98,535,993	7.3	-	分離課税所得割交付金	1,705,424	0.1	-	1,705,424	
分担金・負担金		4,250,719	0.2	-	-	釧区税	-	-	-	地方消費税交付金	213,858,646	9.7	-	213,858,646	
使用料		26,909,220	1.2	2,072,373	0.2	固定資産税特例	-	-	-	ゴルフ場利用税交付金	1,135,996	0.1	-	1,135,996	
手数料		11,094,728	0.5	-	-	法定外普通税	-	-	-	特別地方消費税交付金	-	-	-	-	
国庫支出金		201,666,254	9.0	-	-	目的税	14,600	0.0	-	自動車取得税交付金	166,058	0.0	-	166,058	
国有提供交付金		-	-	-	-	法定目的税	14,600	0.0	-	軽油引取税交付金	19,234,278	0.9	-	19,234,278	
財産収入		14,227,464	0.6	1,833,475	0.1	狩猟税	14,600	0.0	-	自動車税環境性能割交付金	6,069,942	0.3	-	6,069,942	
寄附金		613,744	0.0	-	-	法定外目的税	-	-	-	法人事業税交付金	22,783,284	1.0	-	22,783,284	
繰入金		86,417,320	3.8	-	-	旧法による税	200,307	0.0	-	特別区財政調整交付金	-	-	-	-	
繰越金		46,513,122	2.1	-	-	合計	1,349,970,733	100.0	30,131,777	歳出合計	2,207,423,640	100.0	169,709,541	1,845,827,415	
諸収入		41,221,331	1.8	7,071	0.0					性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
地方債		132,158,040	5.9	-	-					区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
うち減収補填債(特例分)		-	-	-	-					義務的経費計	858,116,856	38.9	758,693,217	755,611,945	53.1
うち臨時財政対策債		58,901,000	2.6	-	-					人件費	490,028,040	22.2	436,580,954	433,594,926	30.5
歳入合計		2,251,237,949	100.0	1,364,693,389	100.0					うち職員給	372,211,025	16.9	320,146,610	320,137,484	22.5

区分		令和5年度		令和4年度	
徴収率 (%)	現年・計	合計	99.4	99.1	99.3
		道府県民税	99.2	98.1	99.1
		事業税	100.1	99.8	99.7
国民健康保険		実質収支	7,509,759		3,655,762
事業会計の状況		再差引収支	7,509,759		3,655,762

歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等
義務的経費計	858,116,856	38.9	758,693,217	755,611,945
人件費	490,028,040	22.2	436,580,954	433,594,926
うち職員給	372,211,025	16.9	320,146,610	320,137,484
扶助費	55,370,319	2.5	23,559,588	23,464,344
公債費	312,718,497	14.2	298,552,675	298,552,675
元利償還金	312,718,497	14.2	298,552,675	298,552,675
内訳	286,519,644	13.0	272,369,381	272,369,381
うち元金	26,198,853	1.2	26,183,294	26,183,294
うち利子	-	-	-	-
一時借入金利子	-	-	-	-
その他の経費	1,179,048,105	53.4	1,041,997,815	610,704,092
物件費	83,503,990	3.8	62,797,371	57,262,262
維持補修費	12,593,446	0.6	4,366,471	3,200,146
補助費等	905,709,341	41.0	827,605,873	501,155,580
繰出金	48,510,720	2.2	48,510,720	48,510,720
積立金	121,701,514	5.5	98,051,786	-
投資及び出資金	200	0.0	200	-
貸付金	7,028,894	0.3	665,394	575,384
前年度繰上充用金	-	-	-	-
投資的経費計	170,258,679	7.7	45,136,383	
うち人件費	4,416,956	0.2	3,746,800	
普通建設事業費	169,709,541	7.7	44,905,900	
うち補助	61,409,544	2.8	4,634,665	
うち単独	97,767,991	4.4	39,274,229	
災害復旧事業費	549,138	0.0	230,483	
失業対策事業費	-	-	-	
歳出合計	2,207,423,640	100.0	1,845,827,415	

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	2,200,653	2,161,179	39,475	22,938	76,442	3,961,439	
2 公債管理特別会計	608,121	608,121			464,847		
3 公営競技収益配分金等管理会計	1,400	1,400					
4 地方消費税清算会計	832,837	832,837					
5 水源環境保全・再生事業会計	8,901	8,725	176		8,694		
6 市町村自治振興事業会計	9,475	7,927	1,548		2,642	1,140	
7 恩賜記念林業振興資金会計	153	109	44				
8 林業改善資金会計	69	0	69		0		
9 沿岸漁業改善資金会計	167	0	167		0		
10 災害救助基金会計	0	0					
11 母子父子寡婦福祉資金会計	1,689	296	1,393		17	3,202	
12 介護保険財政安定化基金会計	0	0					
13 中小企業資金会計	2,231	2,217	14		194	3,618	
14 県営住宅事業会計	24,435	23,506	929		4,842	51,677	
15 地方独立行政法人神奈川県立病院機構資金会計	4,800	4,800				31,493	
16							実質赤字額
計一般会計等(純計)	2,256,038	2,212,224	43,814	22,938		4,052,570	-

※一般会計等(純計)は、各会計の相互間の繰入・繰出等の重複を控除したものであり、各会計の合計と一致しない場合がある。

公営企業会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等繰入見込額	資金不足比率	備考
1 水道事業会計	54,056	53,344	713	9,436		104,098			法適用企業
2 電気事業会計	7,359	6,896	463	18,822		558			法適用企業
3 公営企業資金等運用事業会計	799	521	278	13,017					法適用企業
4 相模川総合開発共同事業会計	1,833	1,833							法適用企業
5 酒匂川総合開発事業会計	1,457	1,457							法適用企業
6 流域下水道事業会計	20,880	20,893	▲13	1,641	2,072	21,616	21,215		法適用企業
7 国民健康保険事業会計	717,822	710,312	7,510	7,510	53,199				
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									連結実質赤字額
計公営企業会計等				50,425		126,272	21,616		-

関係する一部事務組合等の財政状況(単位:百万円)

一部事務組合等名	総収益(歳入)	総費用(歳出)	純損益(形式収支)	資金剰余額/不足額(実質収支)	他会計等からの繰入金	企業債(地方債)現在高	左のうち一般会計等負担見込額	備考
1 神奈川県内広域水道企業団	42,550	36,086	6,464	16,626		57,969		
2 神奈川県川崎競馬組合	115,363	112,748	2,615	2,615				
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
計一部事務組合等				19,241		57,969		

公債費負担の状況

実質公債費比率（千円・％）				
区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	分母比
元利償還金	114,397,669	128,233,908	114,896,803	9.3
減債基金積立不足算定額	5,801,611	1,674,374	263,640	0.0
準元利償還金	164,235,168	165,609,023	159,879,842	12.9
公営企業債の元利償還金に対する繰入金	2,766,411	2,331,220	2,071,878	0.2
組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-
債務負担行為に基づく支出額(公債費に準ずるもの)	1,771,553	1,650,719	1,433,575	0.1
一時借入金の利子	-	-	-	-
合計	(A) 288,972,412	299,499,244	278,545,738	
内訳				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	分母比
PFI事業に係るもの	1,069,310	1,069,519	968,718	0.1
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
国営土地改良事業・森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	702,243	581,200	464,857	0.0
利子補給に係るもの	-	-	-	-
特定財源の額	(B) 4,369,971	3,533,300	4,135,885	
標準財政規模	(C) 1,408,199,595	1,376,993,363	1,414,177,145	
算入公債費等の額	(D) 176,722,953	174,563,279	174,398,326	
	(C)-(D) 1,231,476,642	1,202,430,084	1,239,778,819	
実質公債費比率	(単年度)	8.8	10.1	8.1
((A)-(B)+(D)) / ((C)-(D)) × 100	(3年平均)	9.2	9.4	8.9

将来負担の状況

将来負担比率（千円・％）				
区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	分母比
将来負担額	4,291,815,353	4,167,509,321	4,052,570,056	326.9
一般会計等に係る地方債の現在高	12,180,821	10,797,188	9,607,871	0.8
債務負担行為に基づく支出予定額	23,446,054	22,268,181	21,215,051	1.7
公営企業債等繰入見込額	-	-	-	-
組合等負担等見込額	-	-	-	-
退職手当負担見込額	294,461,793	287,020,067	294,858,586	23.8
設立法人等の負債額等負担見込額	5,012,445	3,802,735	5,868,807	0.5
うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額	-	-	-	-
連結実質赤字額	-	-	-	-
組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-
合計	(E) 4,626,916,466	4,491,397,492	4,384,120,371	
充当可能財源等	1,144,679,447	1,193,529,224	1,252,410,942	101.0
充当可能特定繰入	62,518,311	56,446,482	53,996,941	4.4
基準財政需要額算入見込額	2,414,209,444	2,368,407,414	2,283,419,213	184.2
合計	(F) 3,621,407,202	3,616,383,120	3,589,827,096	
将来負担比率((E)-(F)) / ((C)-(D)) × 100	81.6	72.7	64.0	
健全化判断比率	令和5年度	早期健全化基準	財政再生基準	
実質赤字比率	-	3.75	5.00	
連結実質赤字比率	-	8.75	15.00	
実質公債費比率	8.9	25.0	35.0	
将来負担比率	64.0	400.0		

内訳	令和3年度	令和4年度	令和5年度	分母比
PFI事業に係るもの	8,829,855	7,956,120	7,171,370	0.6
いわゆる五省協定等に係るもの	-	-	-	-
国営土地改良事業に係るもの	-	-	-	-
森林総合研究所等が行う事業に係るもの	-	-	-	-
地方公務員等共済組合に係るもの	-	-	-	-
依頼土地の買い戻しに係るもの	-	-	-	-
社会福祉法人の施設建設費に係るもの	-	-	-	-
損失補償・債務保証の履行に係るもの	-	-	-	-
引き受けた債務の履行に係るもの	-	-	-	-
その他上記に準ずるもの	3,350,966	2,841,068	2,436,501	0.2
流域下水道事業会計	23,446,054	22,268,181	21,215,051	1.7
公営企業資金等運用事業会計	-	-	-	-
酒匂川総合開発事業会計	-	-	-	-
水道事業会計	-	-	-	-
その他の会計	-	-	-	-
地方道路公社に係る将来負担額	-	-	-	-
土地開発公社に係る将来負担額	-	-	-	-
地方独立行政法人に係る将来負担額	3,325,748	2,176,427	4,268,672	0.3
その他第三セクター等に係る将来負担額	1,686,697	1,626,308	1,600,135	0.1

地方公社・第三セクター等の経営状況及び地方公共団体の財政的支援の状況(単位:百万円)

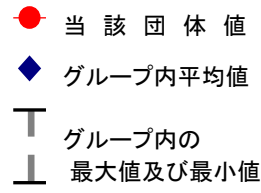
地方公社・第三セクター等名		経常損益	純資産又は 正味財産	当該団体 からの 出資金	当該団体 からの 補助金	当該団体 からの 貸付金	当該団体からの 債務保証に係る 債務残高	当該団体からの 損失補償に係る 債務残高	一般会計等 負担見込額	備考
1	○(一財)神奈川県厚生福利振興会	11	2,131	50				554	55	
2	○(地独)神奈川県立産業技術総合研究所	132	8,678	9,080	3,064					
3	(株)湘南国際村協会	20	909	202						
4	(公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団	▲5	1,904	500						
5	(公財)かながわ国際交流財団	▲18	3,878	165	102					
6	(公財)神奈川県文学振興会	2	174	53						
7	(公財)神奈川県芸術文化財団	11	1,135	600						
8	(公財)かながわ健康財団	▲3	799	117	33					
9	(公財)神奈川県生活衛生営業指導センター	2	39	6	37					
10	(公財)神奈川県都市整備技術センター	110	2,377	80						
11	(株)湘南なぎさパーク	179	2,590	310						
12	(公財)神奈川県下水道公社	▲0	144	55						
13	○神奈川県道路公社	▲91	15,634	10,781	4					
14	○神奈川県住宅供給公社	2,152	66,618	15						
15	(一財)神奈川県教育福祉振興会	180	927	50						
16	(公財)神奈川県スポーツ協会	▲2	184	2	302					
17	(公財)神奈川県暴力追放推進センター	1	523	250	10					
18	(公財)かながわトラストみどり財団	1	532	300	115					
19	(公財)かながわ海岸美化財団	5	1,876	1,400	140					
20	○(公社)神奈川県農業会議	▲2	121	28	143			75	52	
21	(公財)神奈川県栽培漁業協会	▲3	625	288						
22	三崎マリン(株)	▲9	518	20						
23	(一社)神奈川県畜産会	3	79	68	17					
24	(公財)地球環境戦略研究機関	▲109	3,865	50	86					
25	○(公財)神奈川県産業振興センター	▲126	4,414	300	1,322	1,751			45	
26	○(地独)神奈川県立病院機構	▲2,072	21,083	13,557	12,487	1,228			4,269	
27	(株)三浦海業公社	8	230	100						
28	○(大)神奈川県立保健福祉大学	▲252	4,005	4,119	2,518					
29	(一社)神奈川県果実協会	0	88	23						
30	(福)神奈川県総合リハビリテーション事業団	71	1,324	10	201					
31	(職)神奈川県能力開発センター	1	814	270						
32	(公財)横浜市寿町健康福祉交流協会	▲5	44	0						
33										
34										
35										
36										
37										
38										
39										
40										
41										
42										
43										
44										
45										
46										
47										
48										
49										
50										
51										
52										
53										
54										
55										
56										
57										
58										
59										
60										
61										
62										
計	地方公社・第三セクター等			42,849	20,581	2,979		628	4,421	

(3)都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

令和5年度

神奈川県

人	口	9,208,688	人(R6.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%						
うち	日本人	8,948,525	人(R6.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率	-	%				
面積	総額	2,416.32	km ²	実	質	公	債	費	比	率	8.9	%					
歳入	総額	2,251,237,949	千円	将	来	負	担	比	率	64.0	%						
歳出	総額	2,207,423,640	千円	グ	ル	ー	グ			R01	B	R02	B	R03	B		
実質	収支	22,937,841	千円	(	年	度	毎	)		R04	B	R05	B				
標準	財政規模	1,414,177,145	千円														
地方債	現在高	3,073,437,909	千円														



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。

〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕

※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

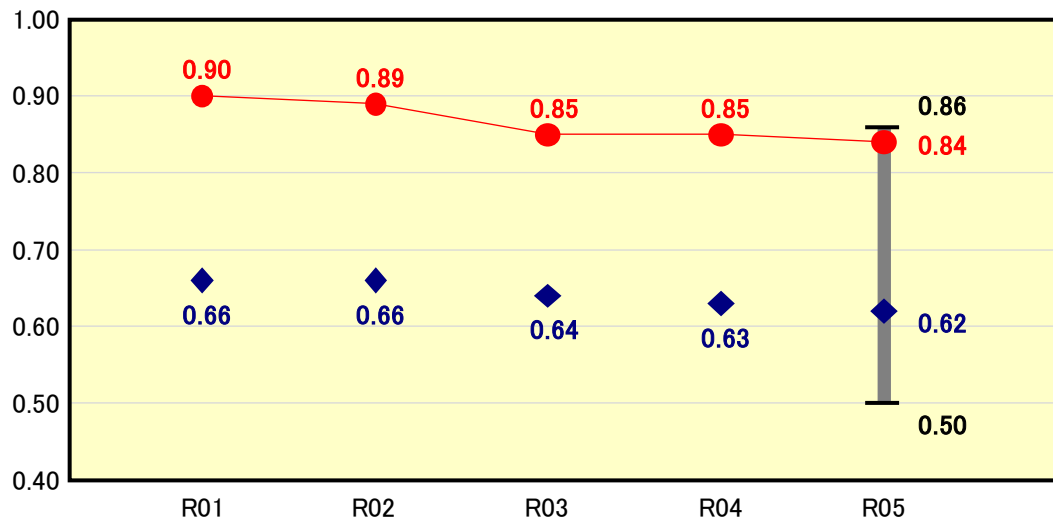
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

※ 「定員管理の状況」の「人口10万人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

財政力

財政力指数 [0.84]



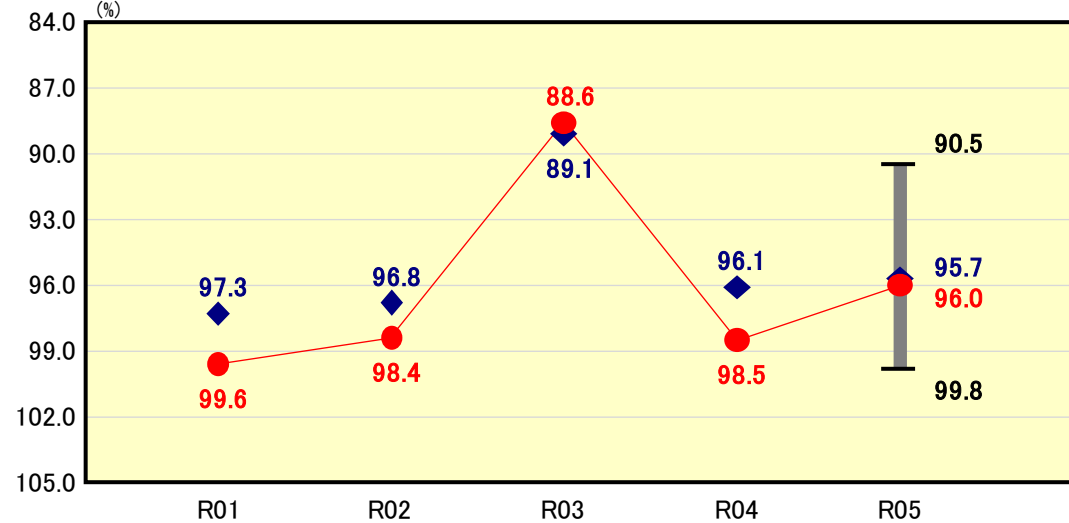
グループ内順位 2/20
都道府県平均 0.49

財政力指数の分析欄

本県は、首都圏に位置し、大規模法人が多いことから、全国的に見て県税収入の割合が高く、財政力指数は0.84と全国平均の0.49の1.7倍、グループ内平均と比較しても1.4倍と、高い財政力を有している。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [96.0%]



グループ内順位 13/20
都道府県平均 92.5

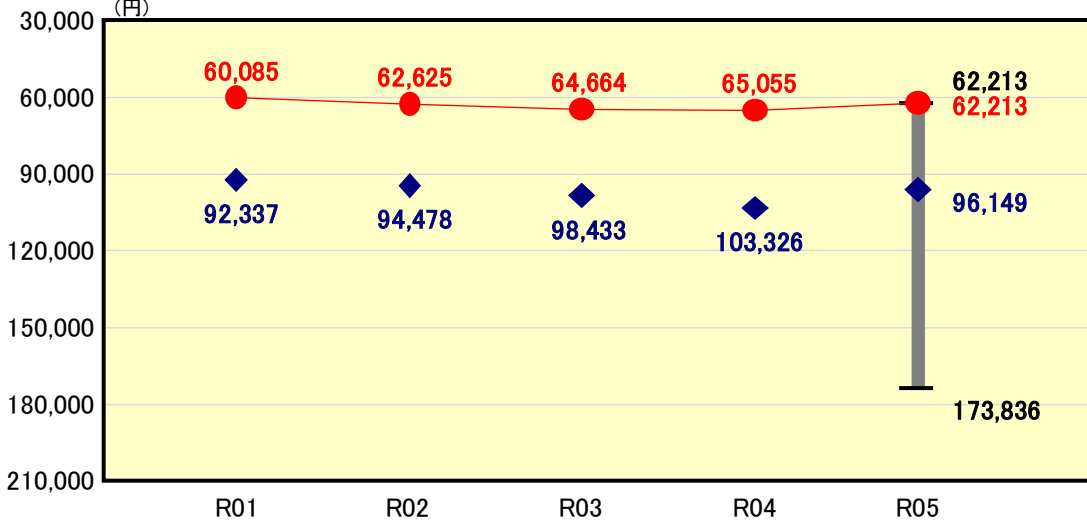
経常収支比率の分析欄

令和5年度は、過去に発行した県債の償還がピークを越えたことによる公債費の減等により、分子である経常経費充当一般財源が減少をしたことから、経常収支比率は前年度より改善した。

なお、本県の財政構造は人口規模に応じて配置する警察官や教職員の人件費負担が多いことに加え、社会保障関係費が増加し、経常収支比率は高い傾向にあるため、今後も引き続き、人件費の抑制、県債の適切な管理、事務事業の見直し等により、歳出の適正化に努めていく。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [62,213円]



グループ内順位 1/20
都道府県平均 116,997

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人件費、物件費及び維持補修費の合計額の人口1人当たりの金額は62,213円とグループ内団体一低いコストとなっている。

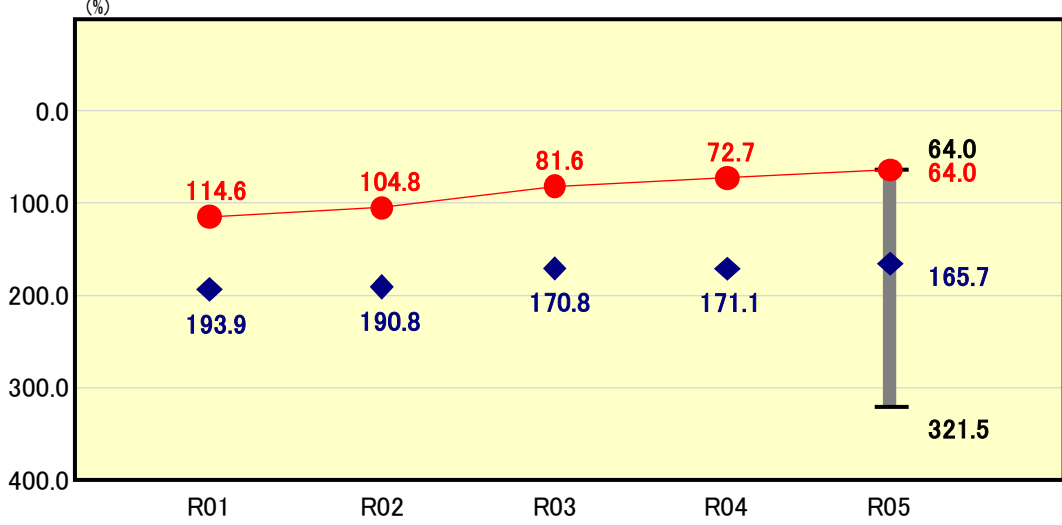
主な要因として、本県では全国に先駆けて平成9年から行政システム改革に取り組み職員数全体の伸びを抑えてきたためである。

また、平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲による影響も一因である。

今後も引き続き、行財政改革に取り組んでいく。

将来負担の状況

将来負担比率 [64.0%]



グループ内順位 1/20
都道府県平均 148.7

将来負担比率の分析欄

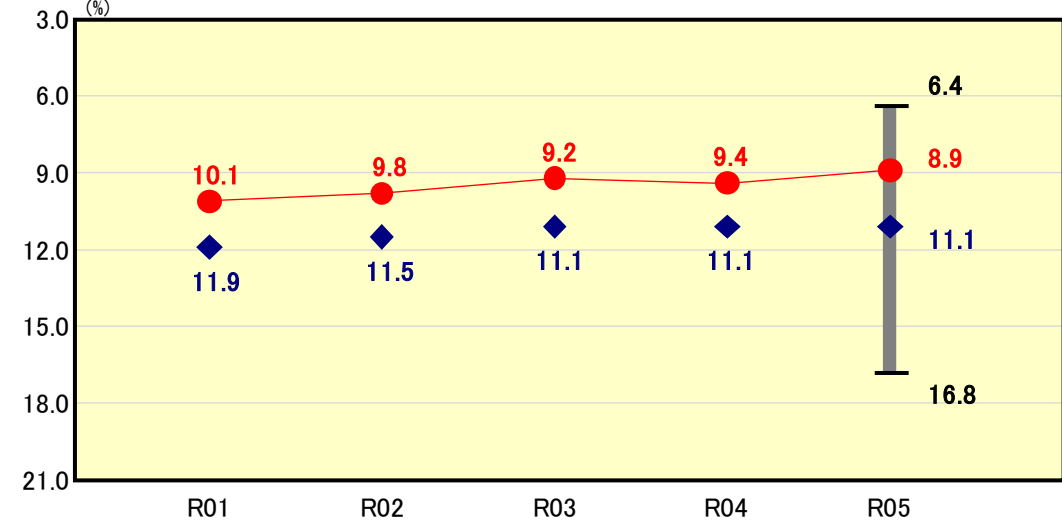
令和5年度は前年度より8.7ポイント減少し、64.0%となり、早期健全化基準(400%)を大きく下回っている。

これは、県債現在高の減少に加え、将来負担額に充当可能な基金が増加したことによるものである。

なお、令和4年度からの将来負担比率の大幅な改善の主な要因は、普通交付税の後年度精算に備えた交付税精算基金への積立等、将来負担額に充当可能な基金への積立を多く行ったことによるもので、後年度の基金活用により将来負担比率が悪化する可能性もあることから、今後も県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めていく。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [8.9%]



グループ内順位 4/20
都道府県平均 10.1

実質公債費比率の分析欄

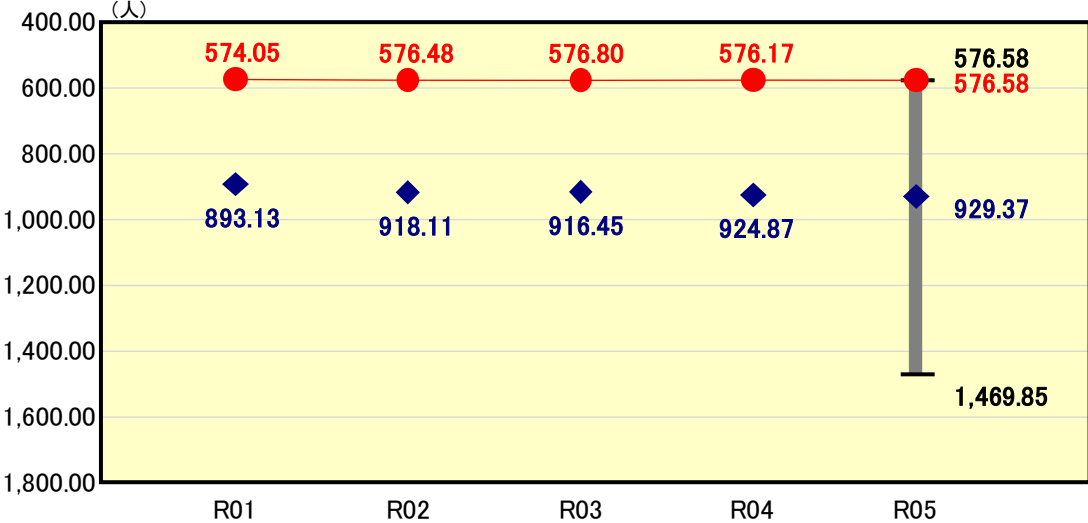
令和5年度は前年度より0.5ポイント減少し、8.9%となり、早期健全化基準(25%)を下回っている。

これは令和5年度に税収が増加したことで標準財政規模が大きくなり分母が大きくなった一方で、分子については、交付税措置されない県債の元利償還金の減等により、分子が小さくなったことによるものである。

今後も県債発行の適切な管理を行う等、健全な財政運営に努めていく。

定員管理の状況

人口10万人当たり職員数 [576.58人]



グループ内順位 1/20
都道府県平均 1,086.47

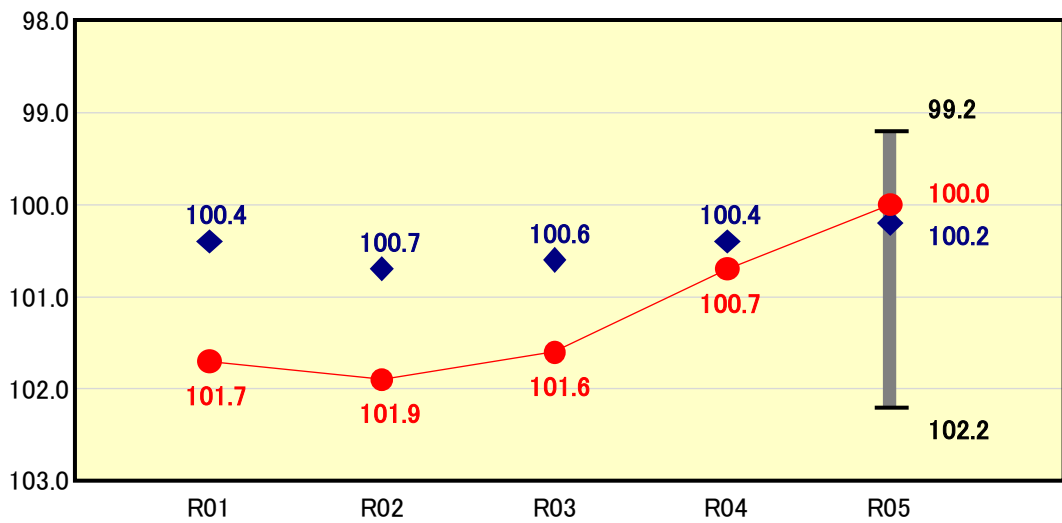
人口10万人当たり職員数の分析欄

簡素で効率的な県政の実現を目指し、全国に先駆けて平成9年度から行政改革に取り組み、一般行政部門の人口10万人当たり職員数は全国最少となっている。

職員・組織・仕事の質を向上させ、行政組織の総合力を高める「質的向上」に着目した改革を進めており、引き続き業務量に応じた適切な定数管理に努めていく。

給与水準(国との比較)

ラスパイレス指数 [100.0]



グループ内順位 7/20
都道府県平均 99.6

ラスパイレス指数の分析欄

知事選に伴う昇格時期の遅れ(知事選に伴い、定期人事異動が6月1日付けであったため、調査対象日である4月1日に昇格がなかったことによるもの)や、育児休業(育休)代替任期付職員の増加により、職員階層が変動し、前年度から0.7ポイント減少した。

職員の給与水準は県内民間企業との均衡を基本としており、今後も引き続き、給与制度全般にわたり厳正な運用に努めていく。

(4)−1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和5年度

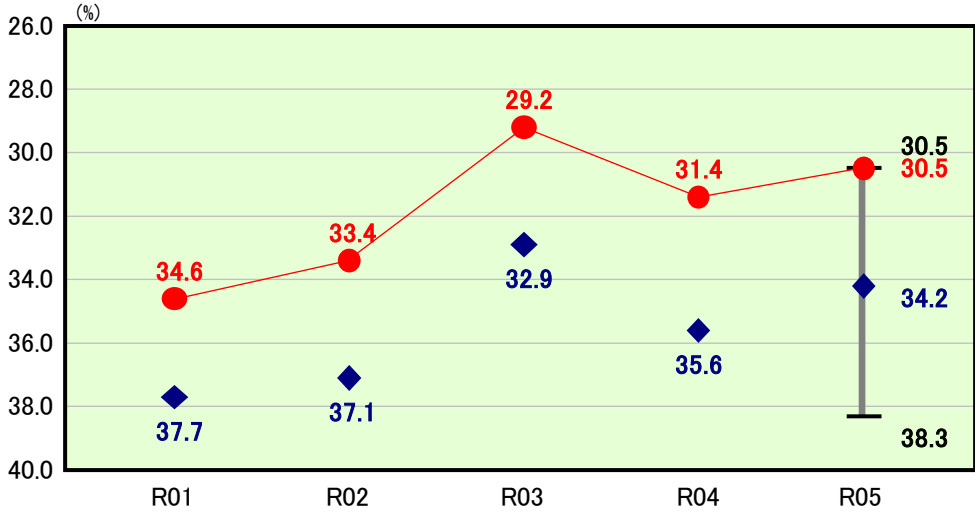
神奈川県

経常収支比率の分析

人	口	9, 208, 688	人(R6. 1. 1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%							
う	ち	日	本	人	8, 948, 525	人(R6. 1. 1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率	-	%		
面	積	2, 416. 32	k m ²	実	質	公	債	費	比	率	8. 9	%						
歳	入	総	額	2, 251, 237, 949	千円	将	来	負	担	比	率	64. 0	%					
歳	出	総	額	2, 207, 423, 640	千円	グ	ル	ー	ブ	R01	B	R02	B	R03	B			
実	質	収	支	22, 937, 841	千円	(	年	度	毎	)	R04	B	R05	B				
標	準	財	政	規	模	1, 414, 177, 145	千円											
地	方	債	現	在	高	3, 073, 437, 909	千円											

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に搭載されている人口に基づいている。
※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

人件費

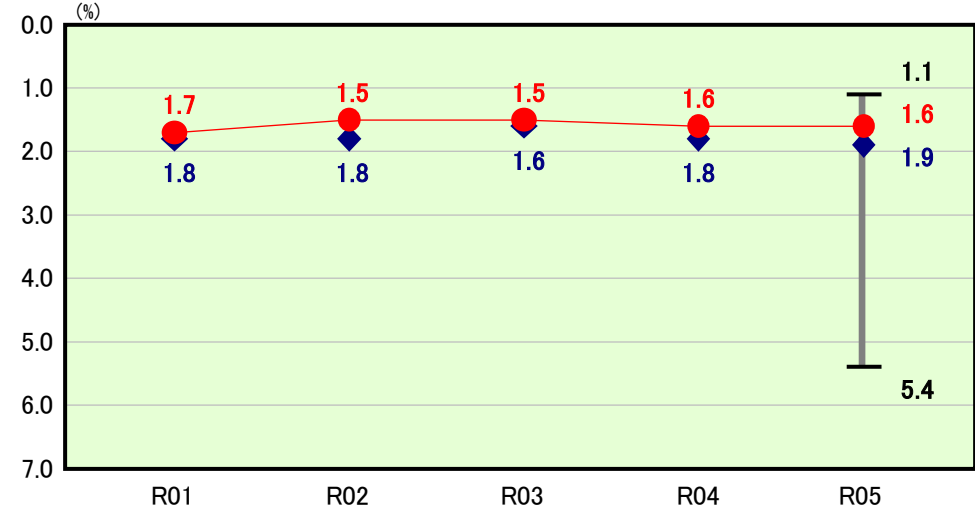


グループ内順位 1/20 都道府県平均 33.2

人件費の分析欄

平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲により大幅に人件費が減となりグループ内で最も低い数値となっている。
令和5年度は、定年延長による退職手当が減となったことに加え、地方税及び地方交付税の増により分母である経常一般財源が増となったことから、前年比0.9ポイントの減少となった。
今後も引き続き、人口規模に応じた職員の適正配置に取り組んでいく。

扶助費

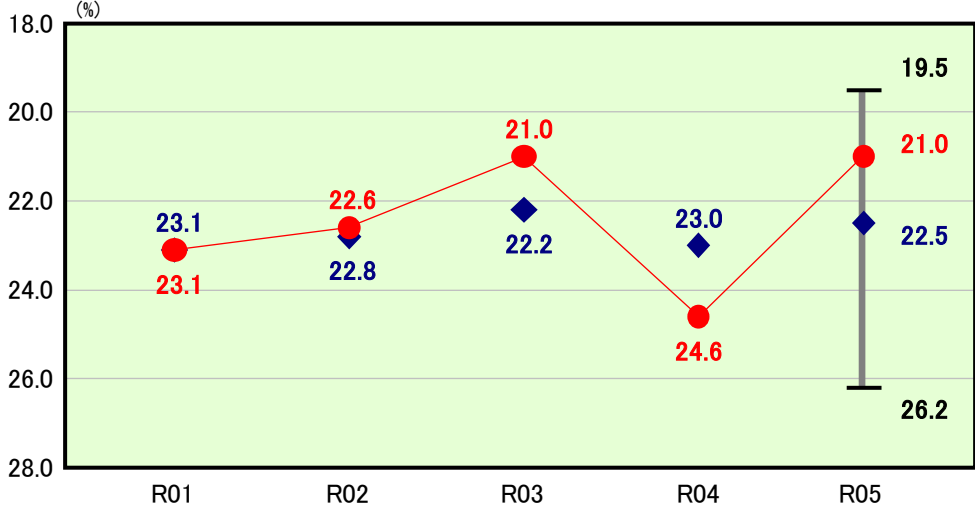


グループ内順位 7/20 都道府県平均 2.4

扶助費の分析欄

平成30年度から政令市へ難病患者医療費に関する事務を移譲したことの影響などにより数値が低下し、グループ内平均を下回っている。
令和5年度は、前年比と横ばいとなった。
県民生活に直接かわかる経費であるため、今後も引き続き、適切に対応していく。

公債費

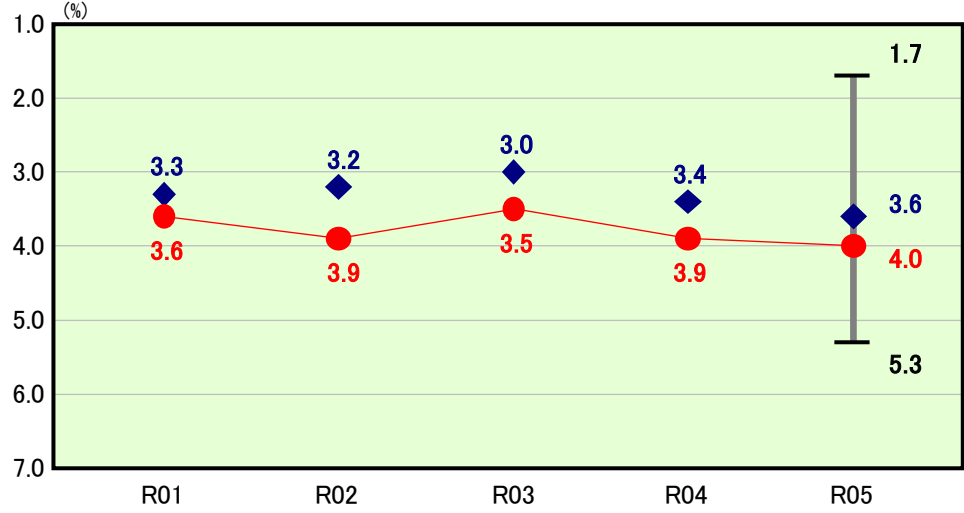


グループ内順位 6/20 都道府県平均 20.7

公債費の分析欄

令和5年度は、公債費が減となったことに加え、地方税及び地方交付税の増により分母である経常一般財源が増となったことから、前年比3.6ポイントの減少となった。
県債残高は、令和6年度に2兆円台となる見込みで、中長期的には県債残高と公債費は減少傾向で推移する見通しとなっている。県債管理に係る良好な状態を維持しながら、今後は必要な投資を抑制することなく県債を適切に管理するため、「県債管理方針」を定め、適切な財政運営に努めていく。

物件費

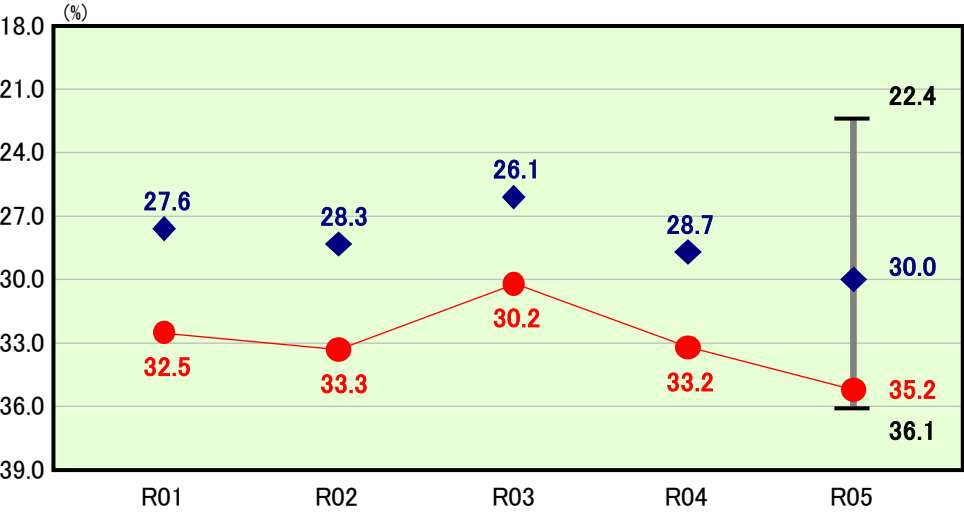


グループ内順位 12/20 都道府県平均 4.2

物件費の分析欄

臨時財政対策債と合わせた実質的な地方交付税の減により、分母である経常一般財源（臨時財政対策債含む）が減少したことにより、前年比0.1ポイント上昇とほぼ横ばいで推移している。
今後も引き続き、事務事業の見直しや業務の効率化などに取り組んでいく。

補助費等

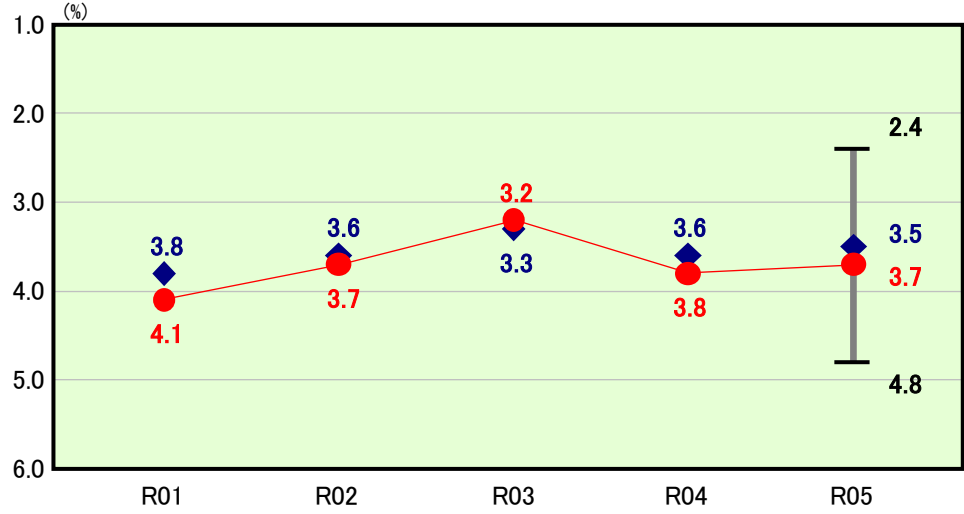


グループ内順位 19/20 都道府県平均 28.3

補助費等の分析欄

平成30年度、国民健康保険事業が新たに普通会計外となった影響等により数値が低下したものの、令和元年度以降は、幼児教育の無償化への対応等により数値が上昇した。
令和5年度は、子ども施策の拡充や高齢化等に伴う社会保障関係費の増により、前年比2.0ポイントの上昇となった。

その他

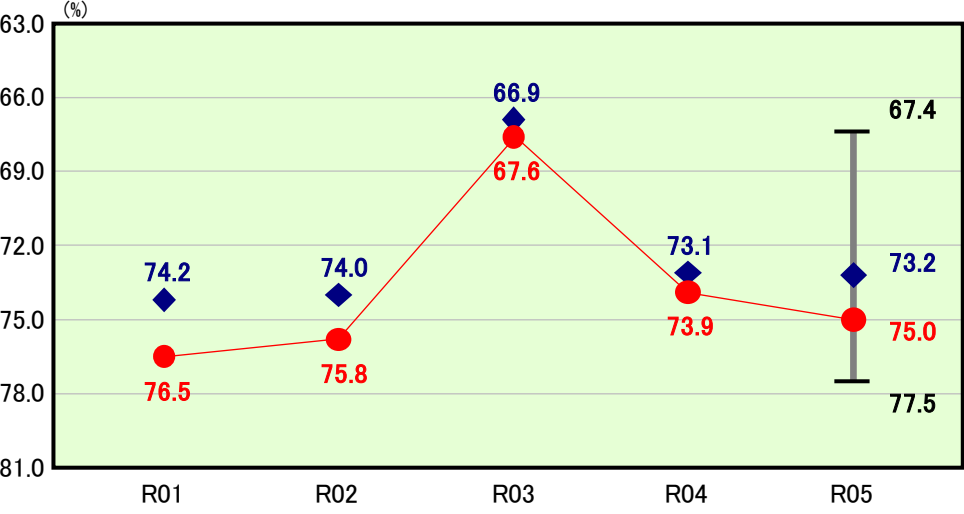


グループ内順位 14/20 都道府県平均 3.7

その他の分析欄

平成30年度、国民健康保険事業が新たに普通会計外となったことによる繰出金の増などの影響により大幅に数値が上昇した。
令和5年度は、国民健康保険都道府県財政調整繰出金が減となったことに加え、地方税及び地方交付税の増により分母である経常一般財源が増となったことから、前年比0.1ポイントの減少となった。

公債費以外



グループ内順位 18/20 都道府県平均 71.8

公債費以外の分析欄

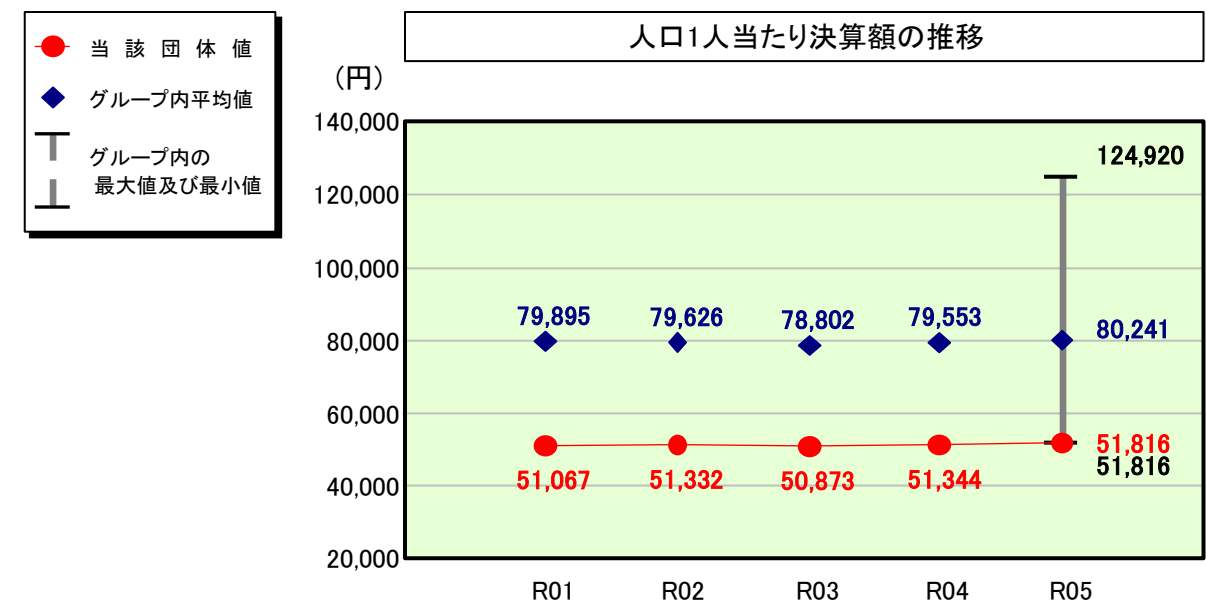
令和5年度は、子ども施策の拡充や高齢化等に伴う社会保障関係費の増に伴い補助費等が増となったことにより、前年比1.1ポイントの上昇となった。
今後も事務事業の見直しに取り組むなど、健全な財政運営に努めていく。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和5年度

神奈川県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

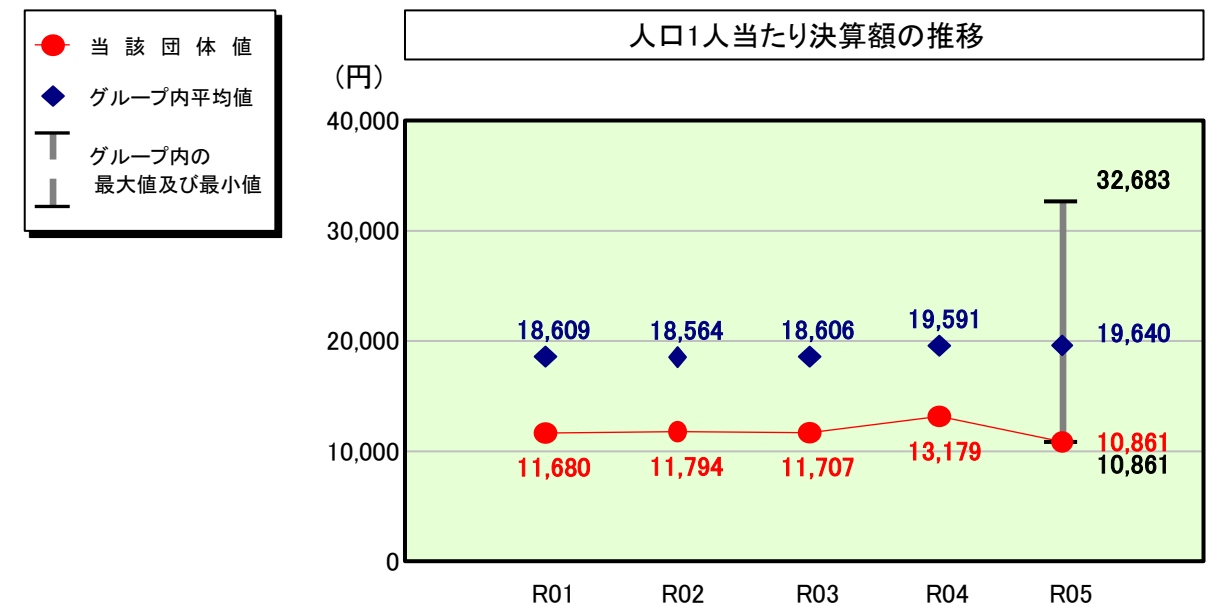
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	490,028,040	53,214	81,919	▲ 35.0
公営企業（法適）等に対する繰出し（補助費等）	354,061	38	453	▲ 91.6
公営企業（法適）等に対する繰出し（投資及び出資金・貸付金）	-	-	-	-
公営企業（法非適）等に対する繰出し（繰出金）	-	-	6	-
事業費支弁に係る職員の人件費（投資的経費）	4,416,956	480	1,014	▲ 52.7
▲退職金	▲ 17,646,118	▲ 1,916	▲ 3,152	▲ 39.2
合計	477,152,939	51,816	80,241	▲ 35.4

参考

	当該団体	グループ内平均	対比（差引）
人口100,000人当たり職員数（人）	576.58	929.37	▲ 352.79
ラスパイレス指数	100.0	100.2	▲ 0.2

（注）人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

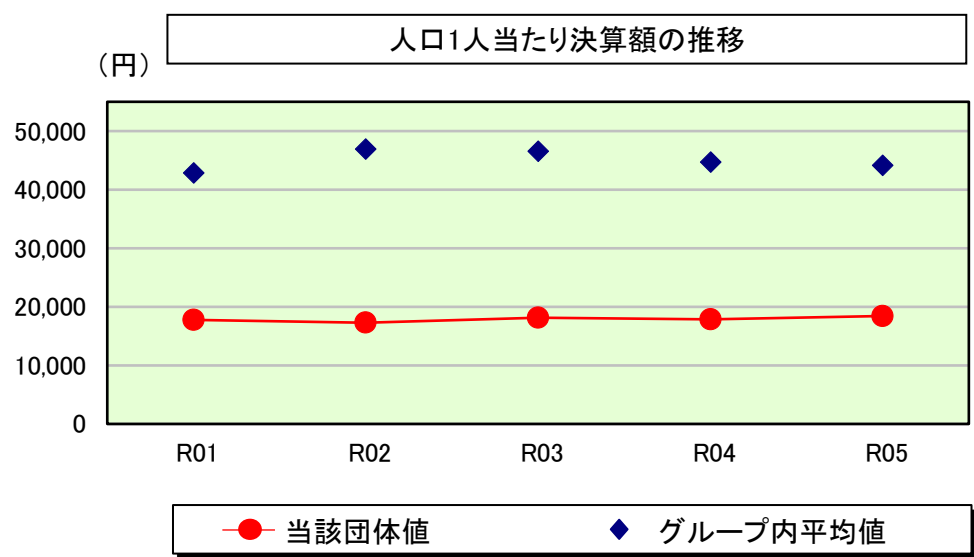
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用（実質公債費比率の構成要素）

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	114,896,803	12,477	24,762	▲ 49.6
積立不足額を考慮して算定した額	263,640	29	1,009	▲ 97.1
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	159,879,842	17,362	21,102	▲ 17.7
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,071,878	225	853	▲ 73.6
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	45	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	1,433,575	156	405	▲ 61.5
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	1	-
▲特定財源の額	▲ 4,135,885	▲ 449	▲ 1,440	▲ 68.8
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 174,398,326	▲ 18,938	▲ 27,098	▲ 30.1
合計	100,011,527	10,861	19,640	▲ 44.7

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	グループ内平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
R01	163,249,251	17,726	10.9	42,833	9.6	1.3
うち単独分	89,646,198	9,734	▲ 0.4	15,211	7.8	▲ 8.2
R02	159,321,812	17,280	▲ 2.5	46,888	9.5	▲ 12.0
うち単独分	82,677,445	8,967	▲ 7.9	14,375	▲ 5.5	▲ 2.4
R03	167,289,223	18,154	5.1	46,574	▲ 0.7	5.8
うち単独分	92,321,352	10,018	11.7	14,394	0.1	11.6
R04	164,284,505	17,834	▲ 1.8	44,729	▲ 4.0	2.2
うち単独分	93,237,908	10,121	1.0	15,395	7.0	▲ 6.0
R05	169,709,541	18,429	3.3	44,130	▲ 1.3	4.6
うち単独分	97,767,991	10,617	4.9	15,920	3.4	1.5
過去5年間平均	164,770,866	17,885	3.0	45,031	2.6	0.4
うち単独分	91,130,179	9,891	1.9	15,059	2.6	▲ 0.7

(5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和5年度

神奈川県

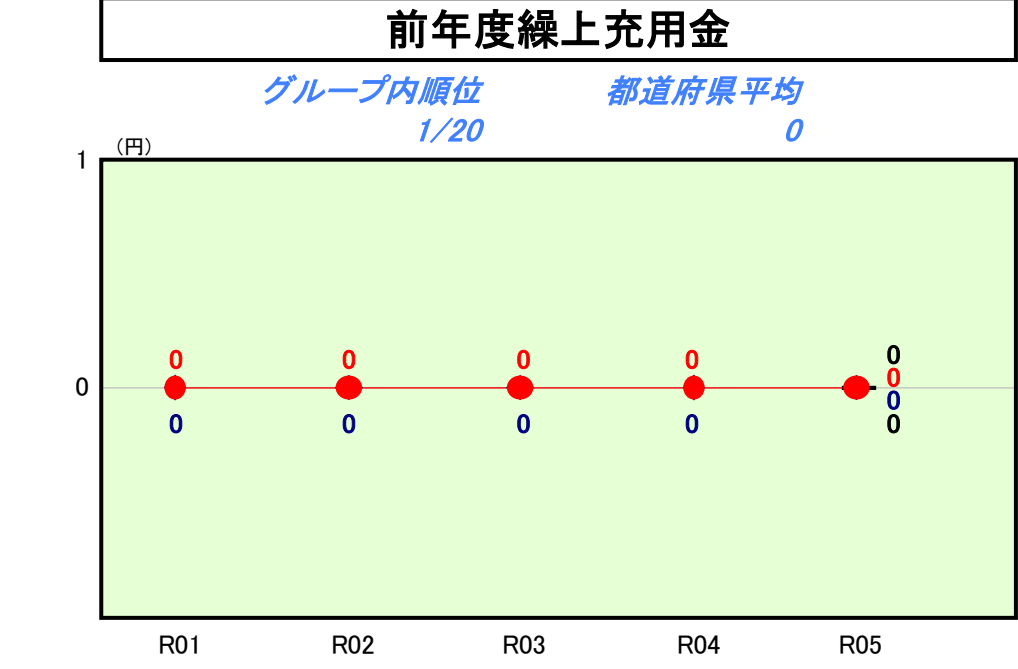
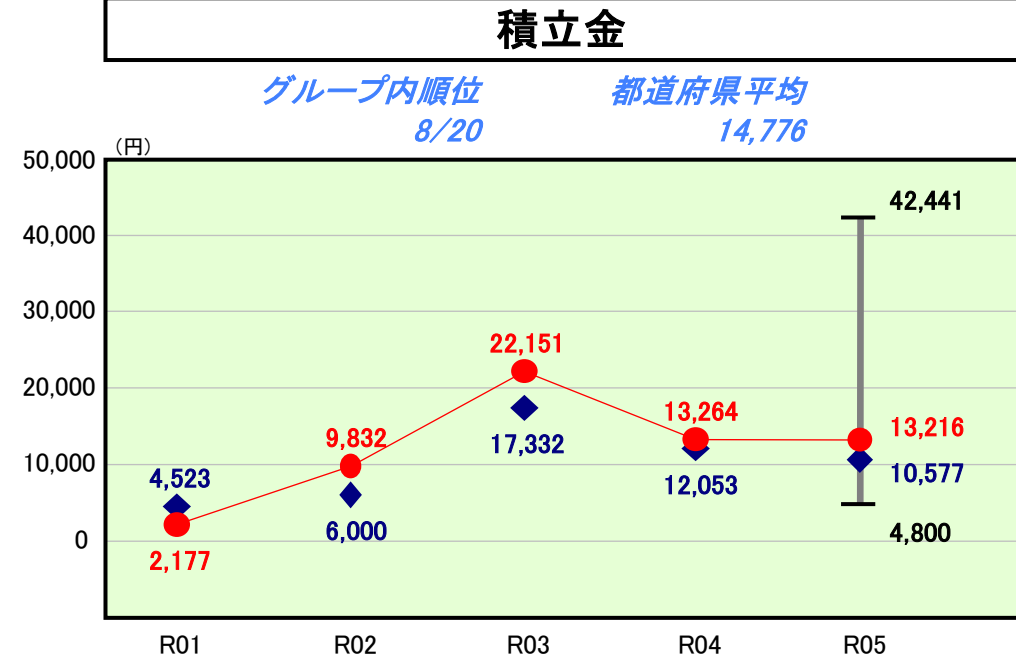
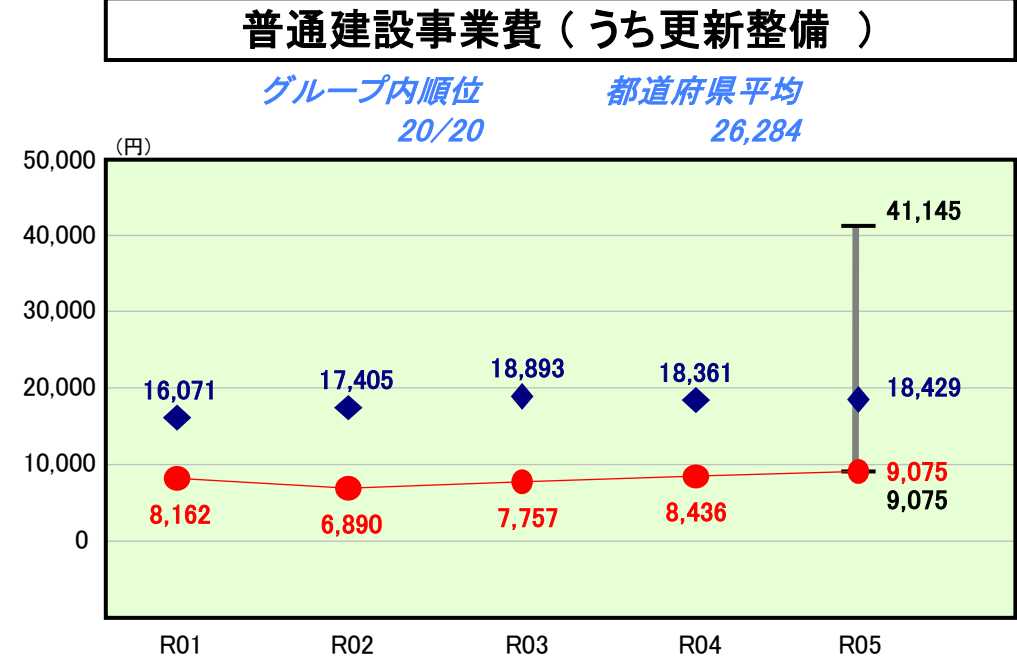
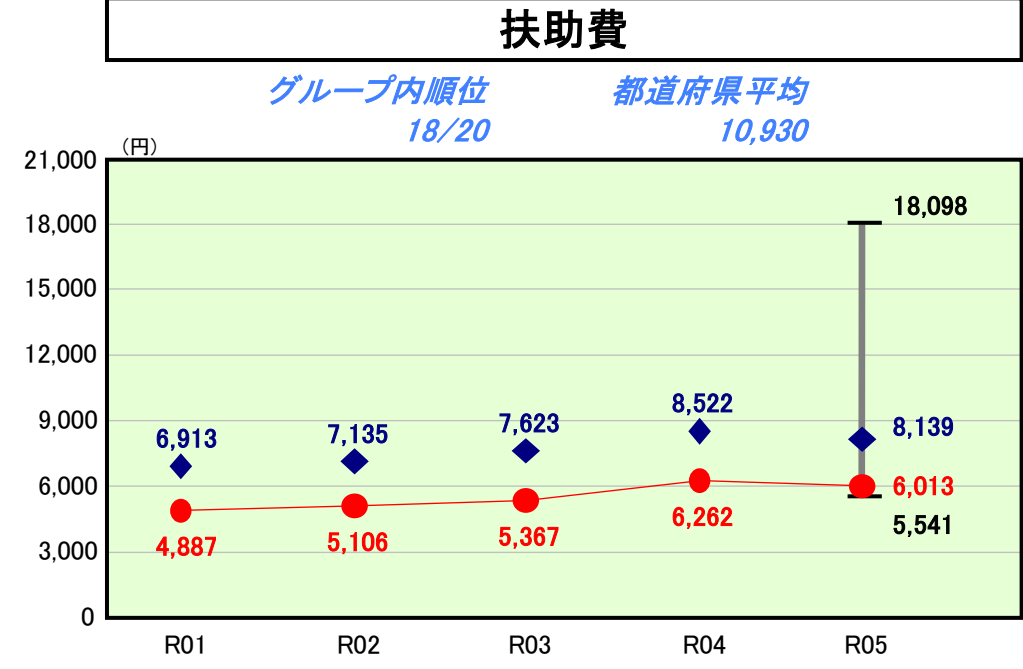
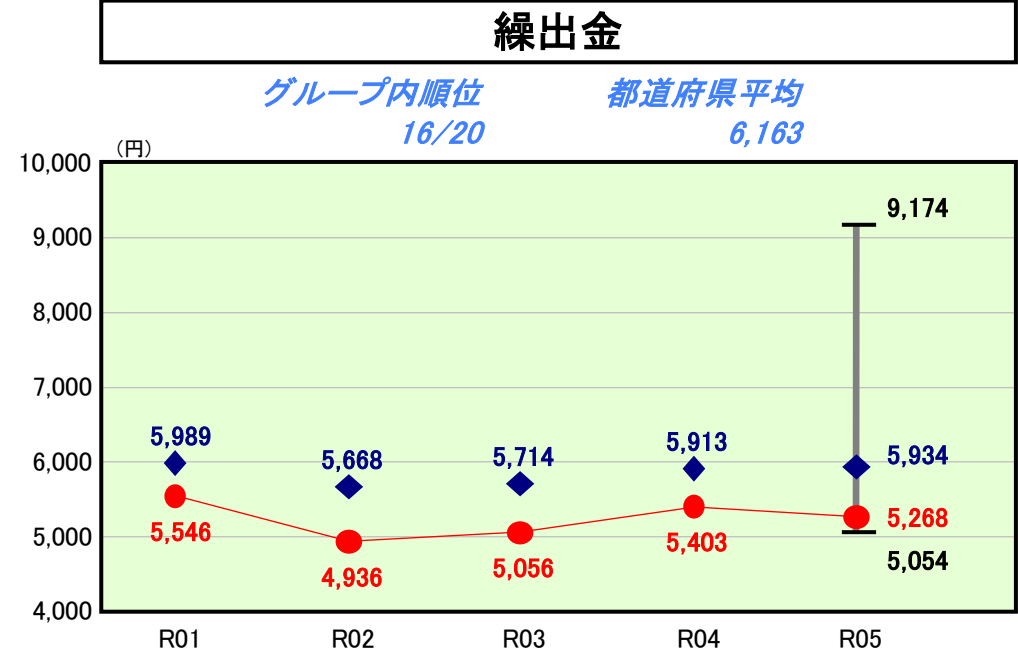
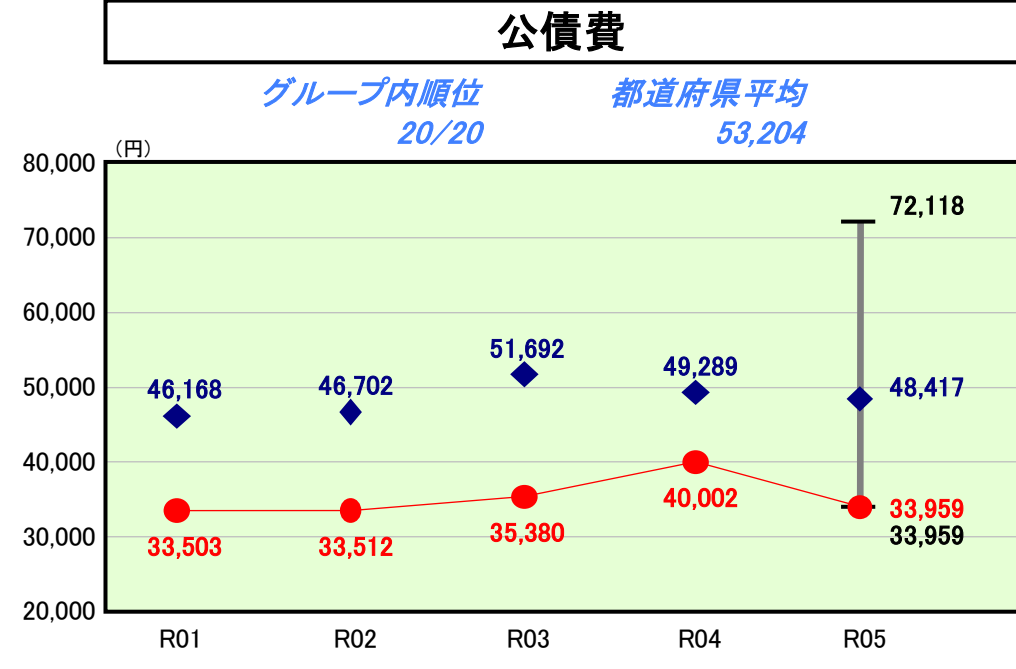
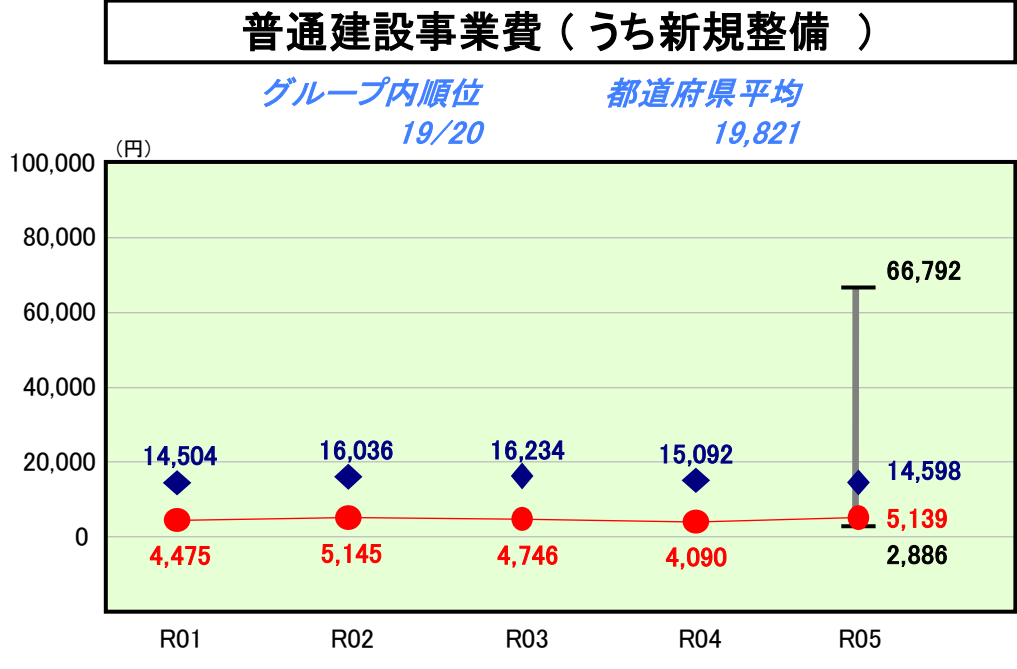
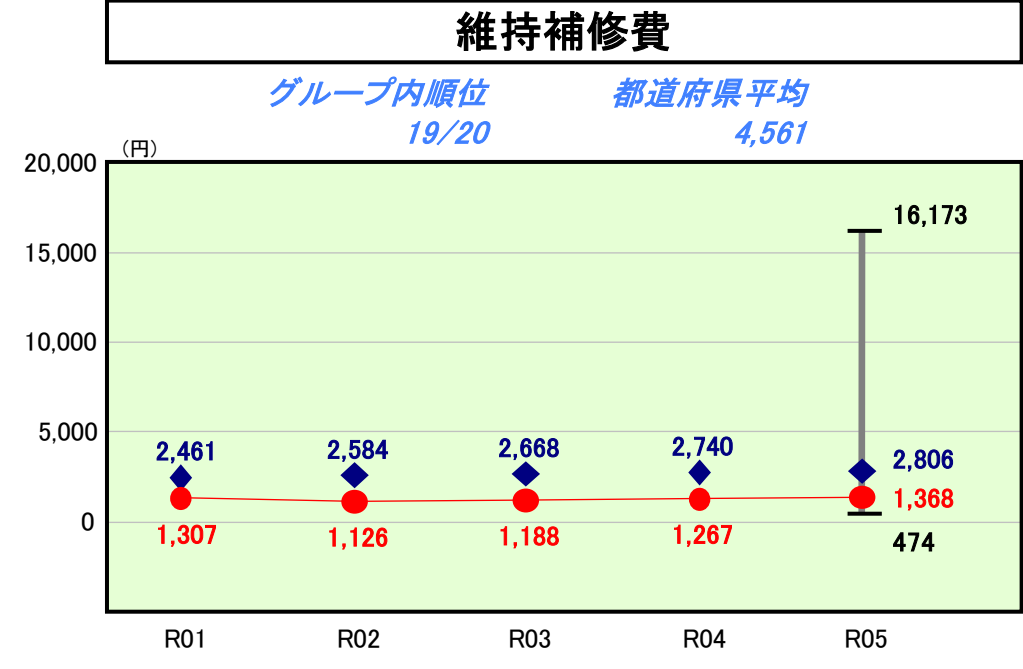
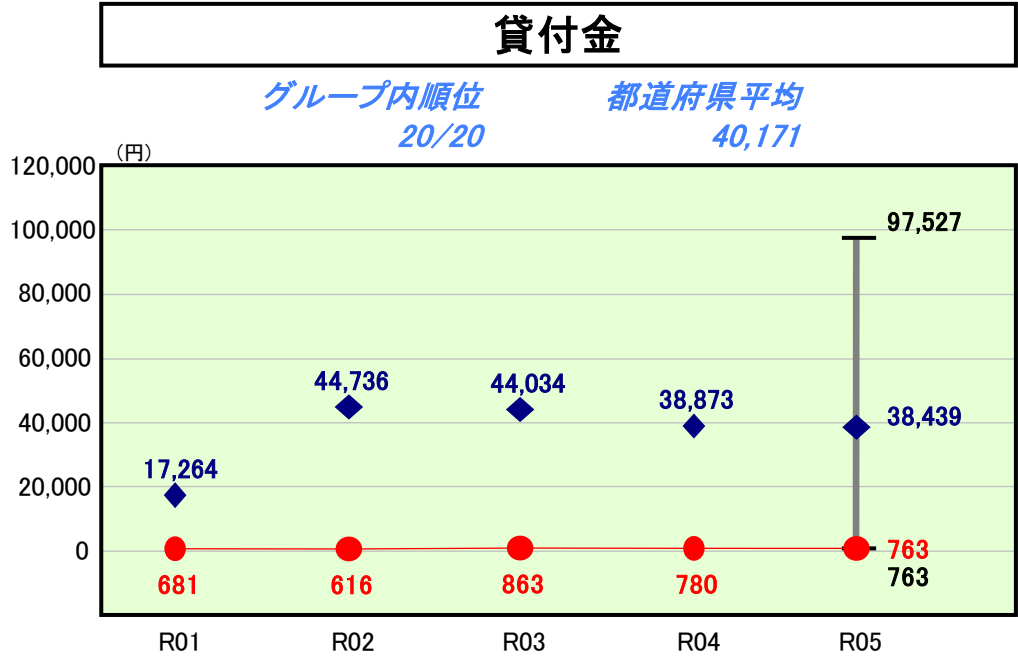
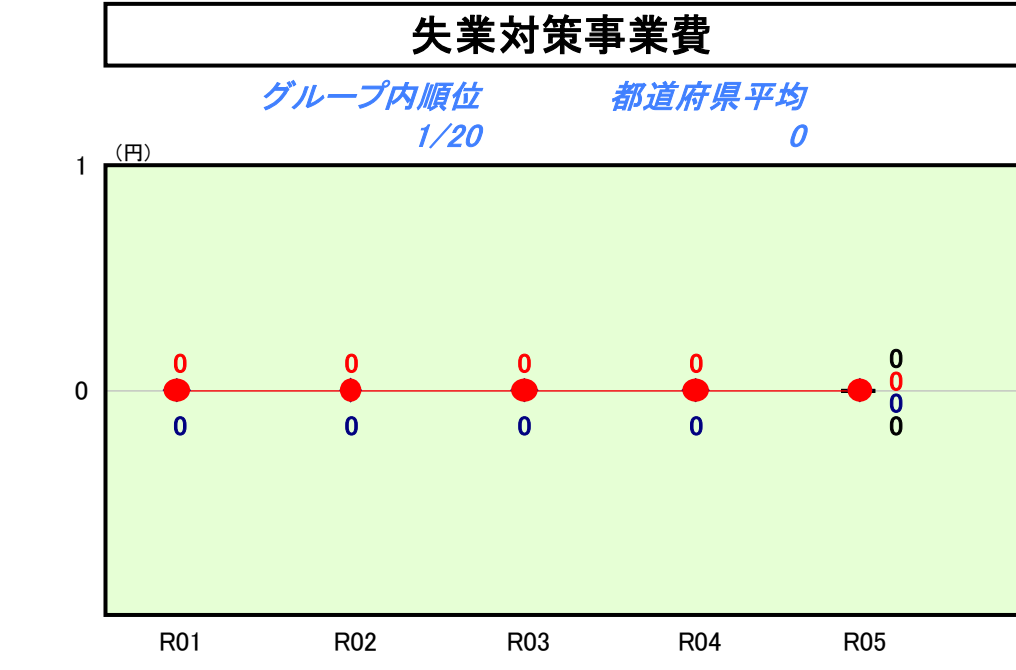
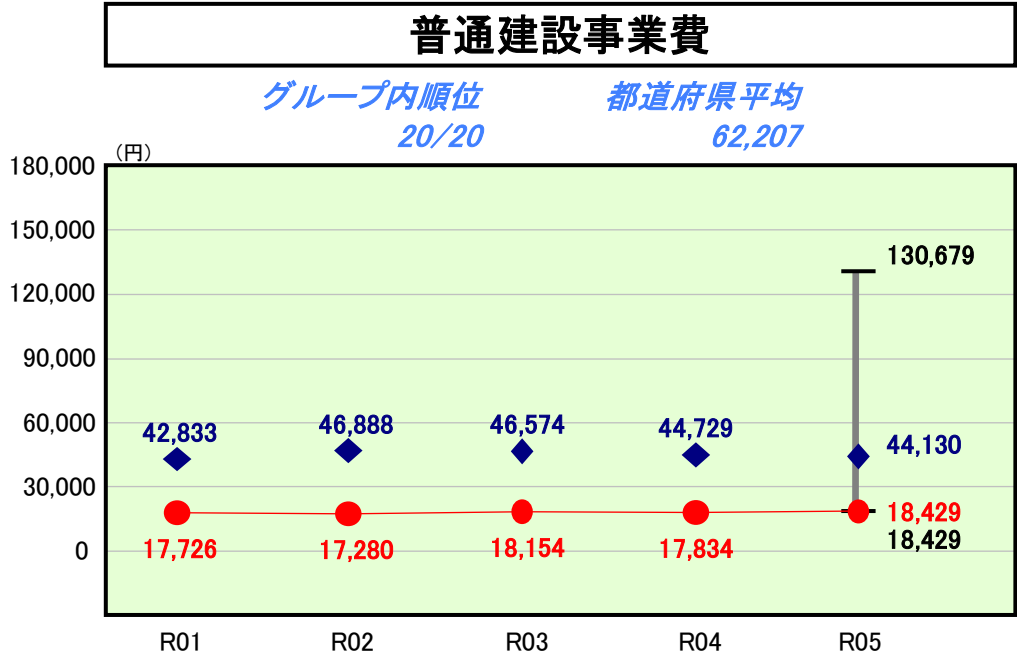
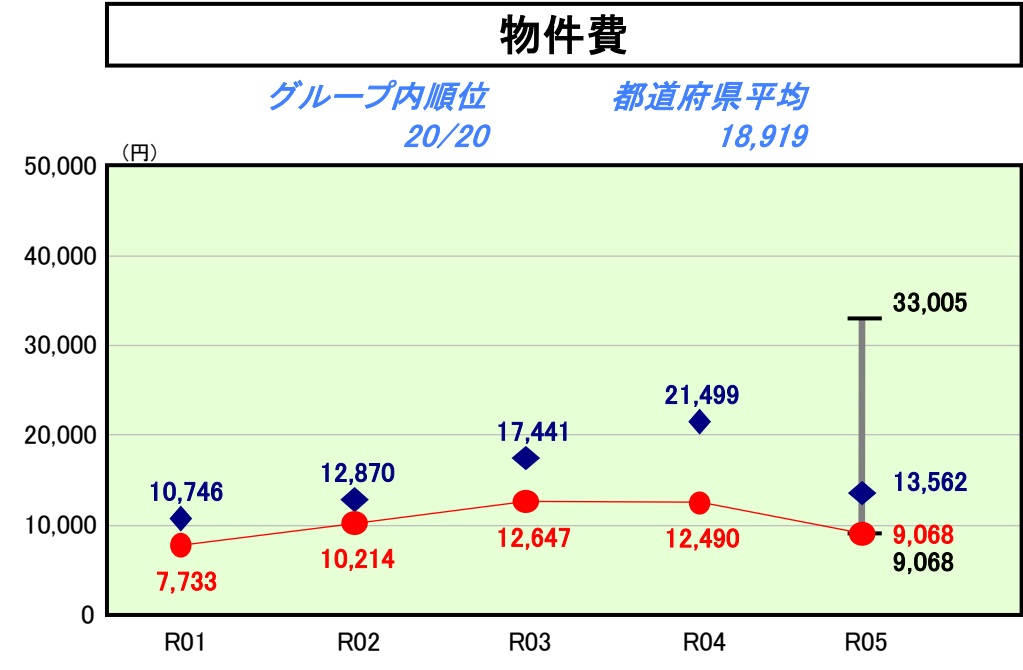
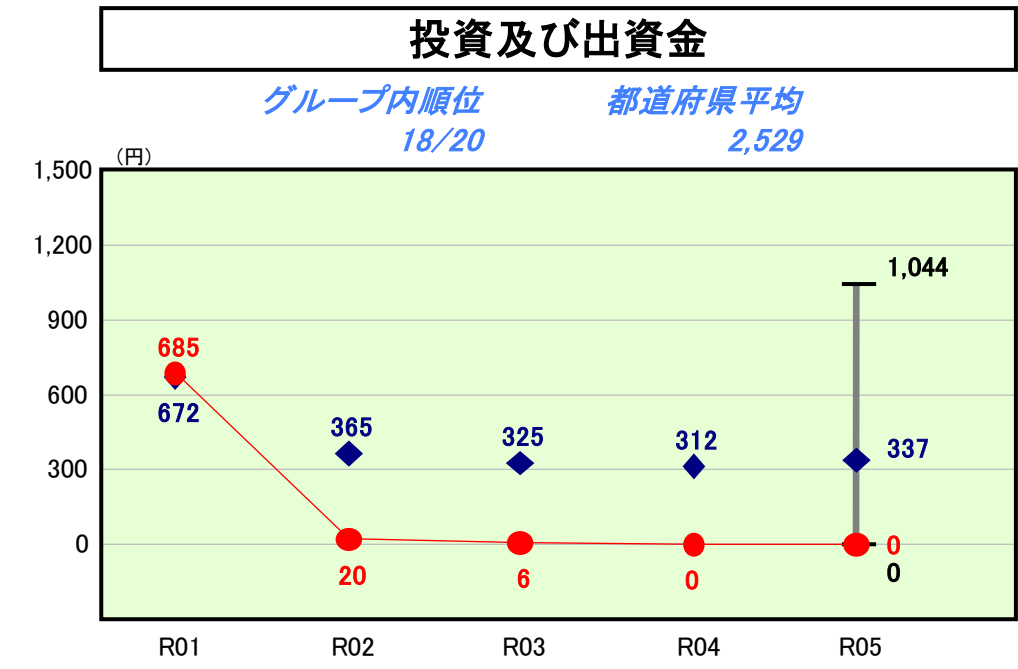
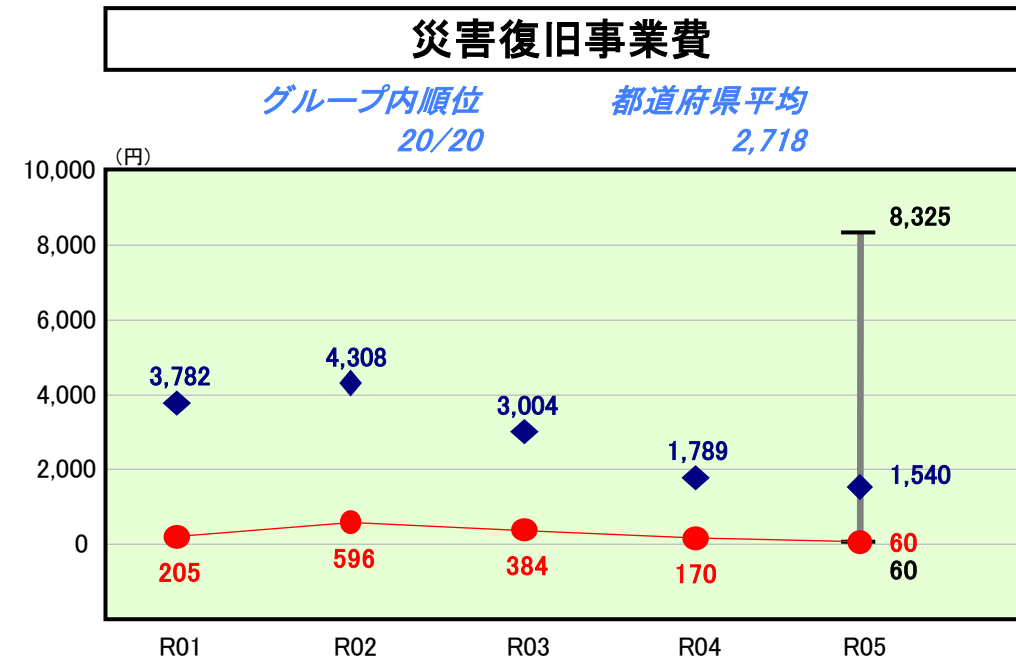
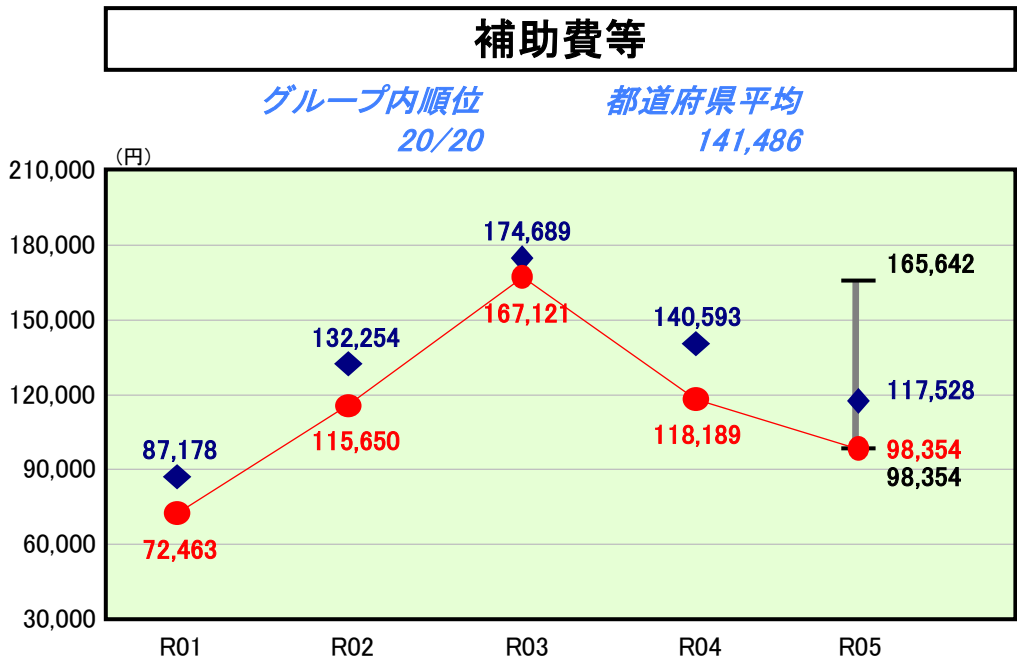
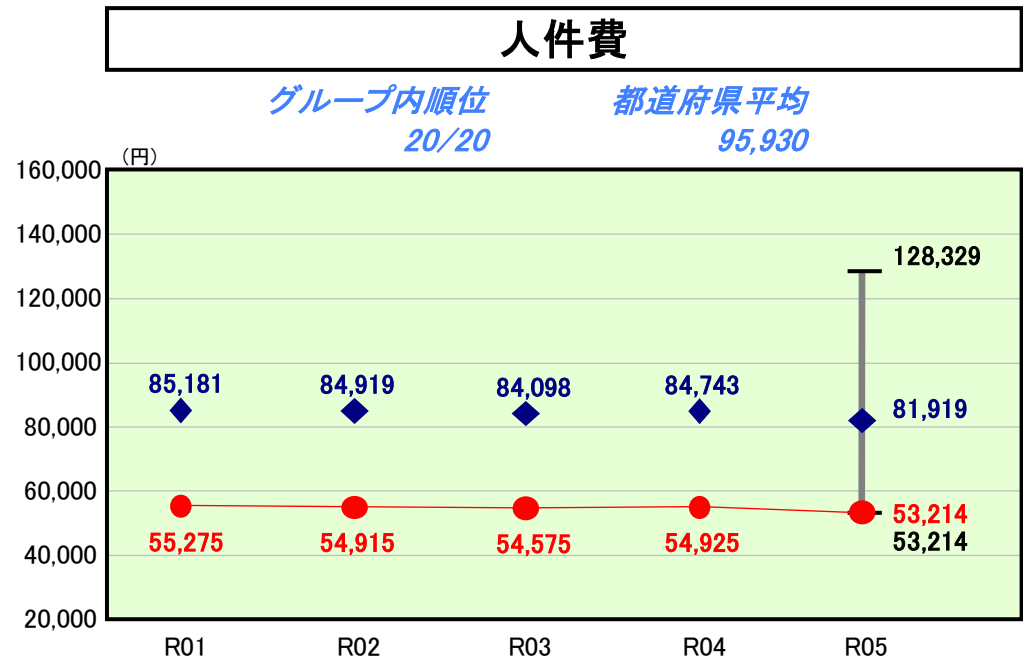
人	口	9,208,688人(R6.1.1現在)	実	質	赤	字	比	率	-	%
うち日本人	積	8,948,525人(R6.1.1現在)	連	結	実	質	赤	字	比	率
面積	2,416.32km ²		実	質	公	債	費	比	率	8.9%
歳入総額	2,251,237,949千円		将	来	負	担	比	率	64.0%	%
歳出総額	2,207,423,640千円		グ	ル	ー	ブ				
実質収支	22,937,841千円		(	年	度	毎	)			
標準財政規模	1,414,177,145千円						R01	B	R02	B
地方債現在高	3,073,437,909千円						R04	B	R05	B



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1,000以上、Bグループ 0,500以上1,000未満、Cグループ 0,400以上0,500未満、Dグループ 0,300以上0,400未満、Eグループ 0,300未満 〕

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に搭載されている人口に基づいている。

※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



性質別歳出の分析欄

歳出決算総額は、住民一人当たり239,711円となっている。

人件費は、平成29年度の県費負担教職員の給与負担事務の政令市への移譲から大幅に減少し、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。令和5年度は、定年延長による退職手当の減等により減少している。

物件費は、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設運営費の減等により減少している。

補助費等は、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により大幅増となっていたが、令和4年度から減少に転じ、令和5年度は、感染症病床確保支援事業費の減等により減少している。

普通建設事業費は、県内に抱える3つの政令市が道路建設等を担っていることから、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。

公債費は、過去に発行した県債の償還がピークを越えたこと等により減少した。また、県債発行の適正化に取り組んでおり、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。

(6)都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和5年度

神奈川県

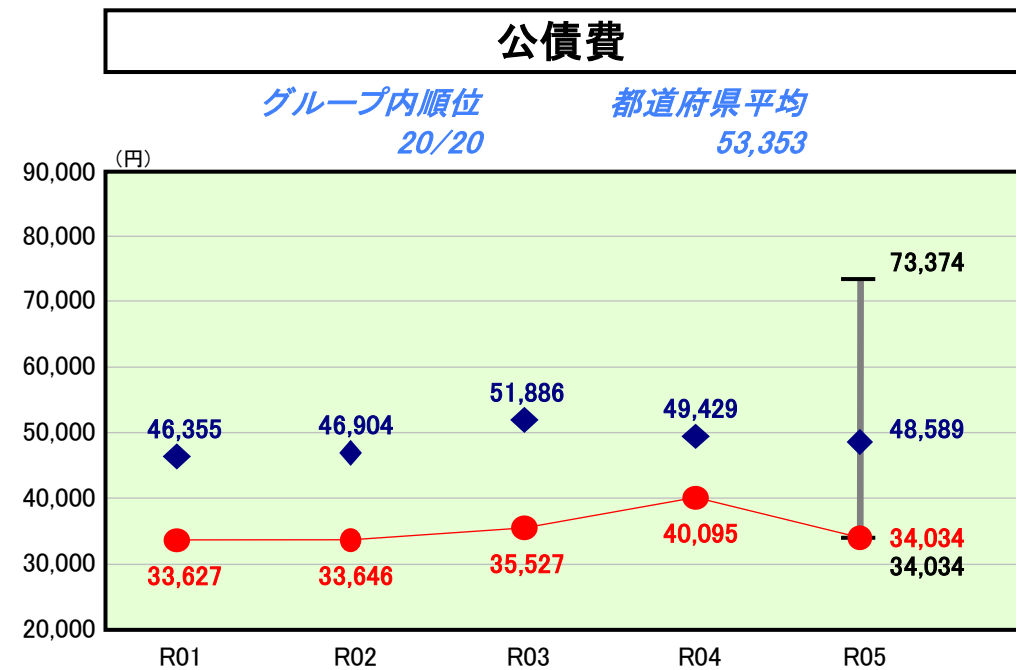
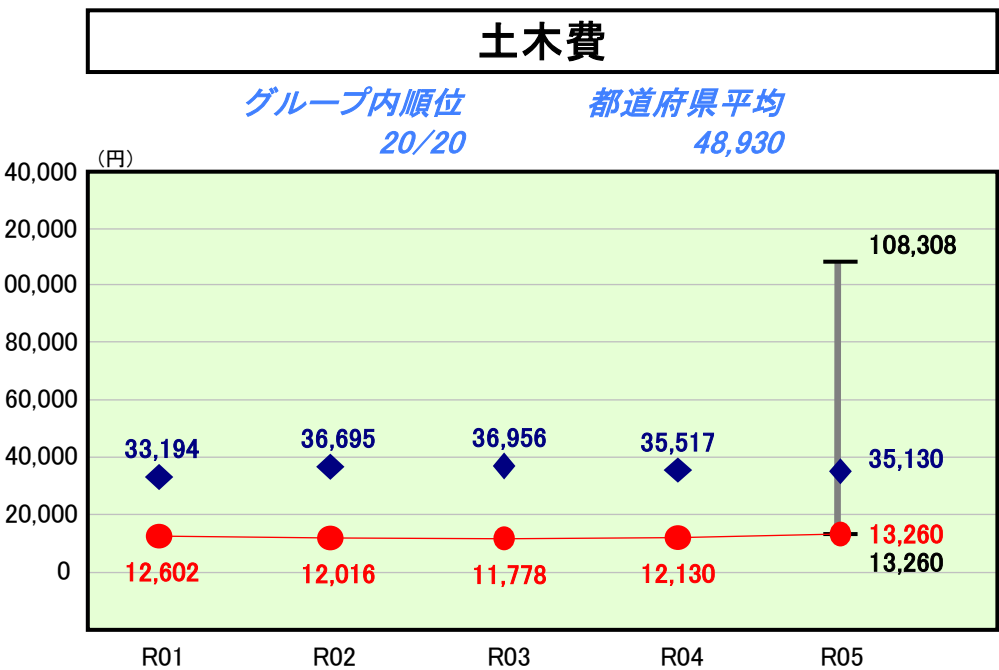
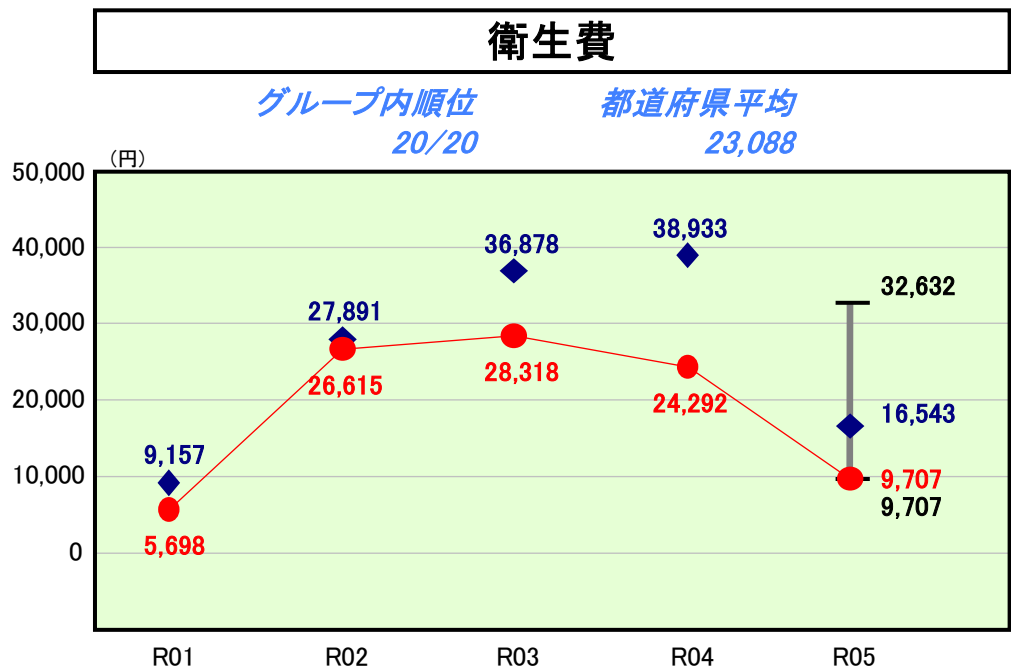
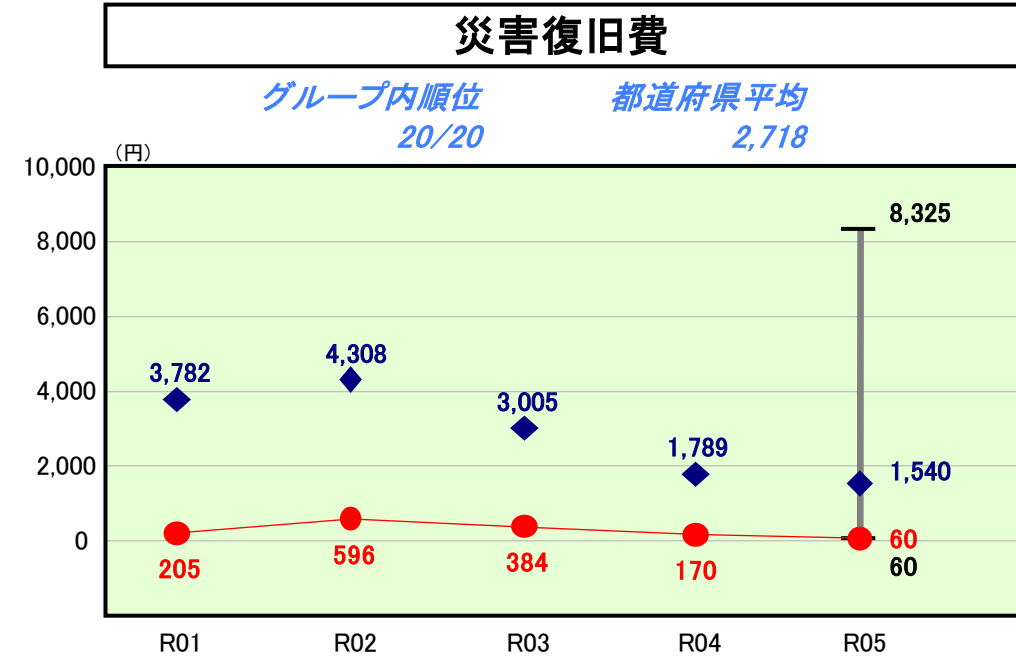
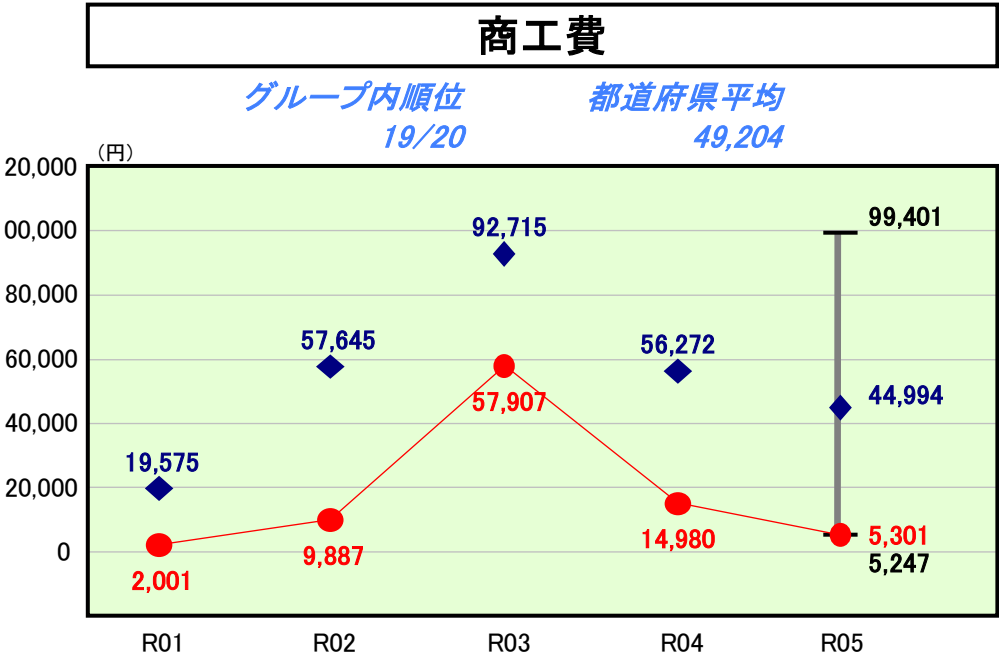
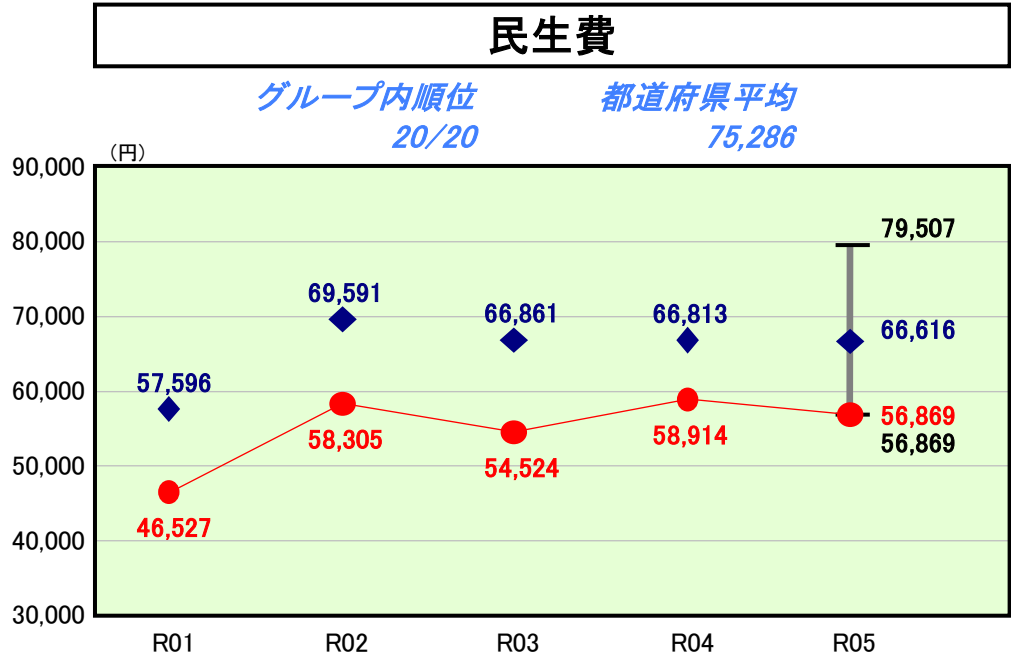
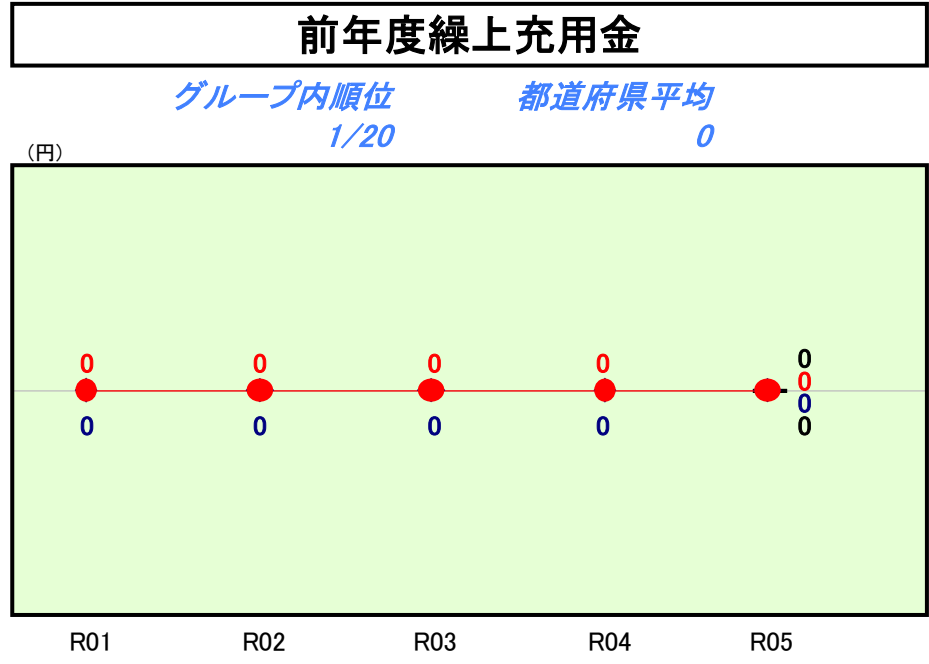
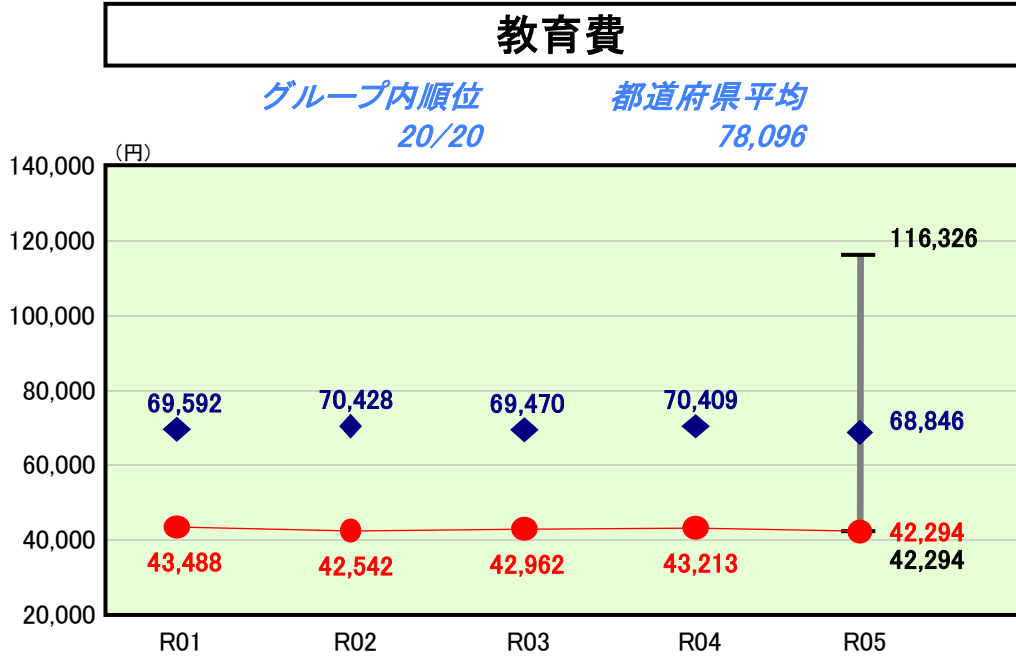
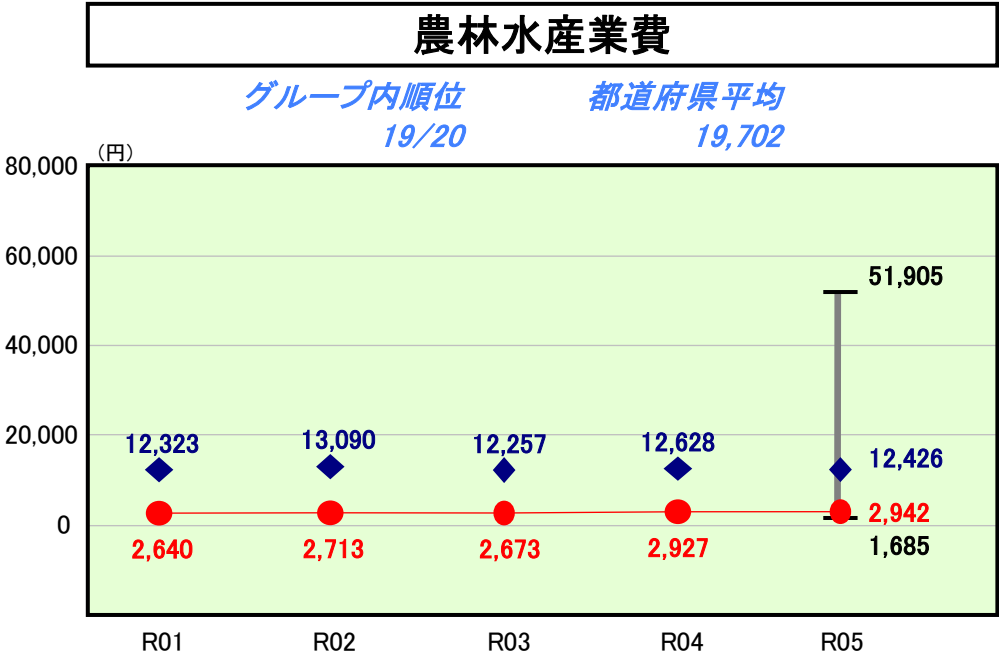
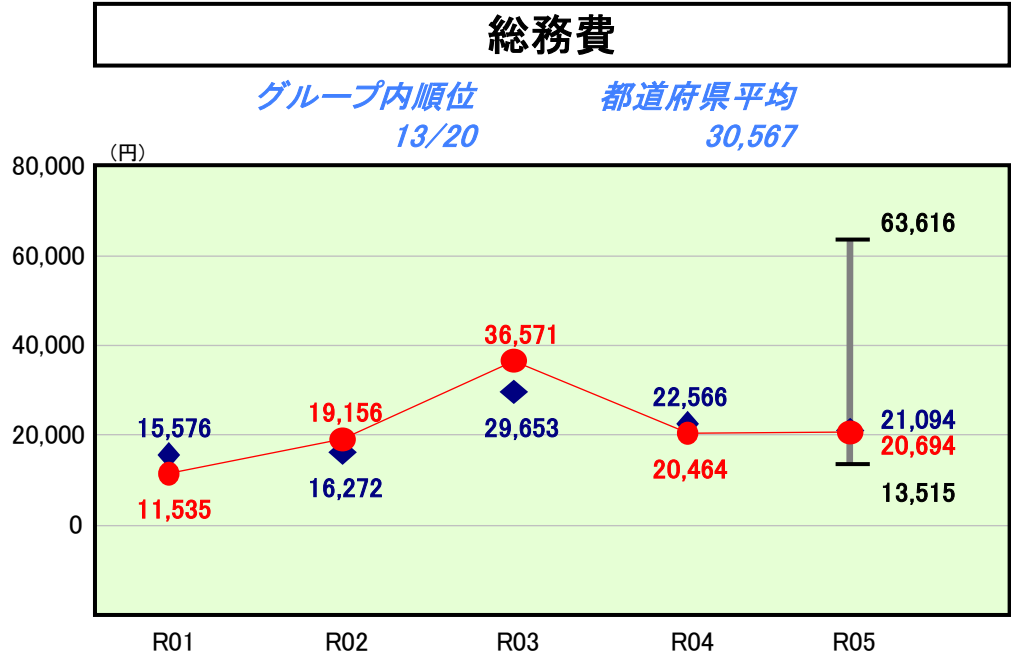
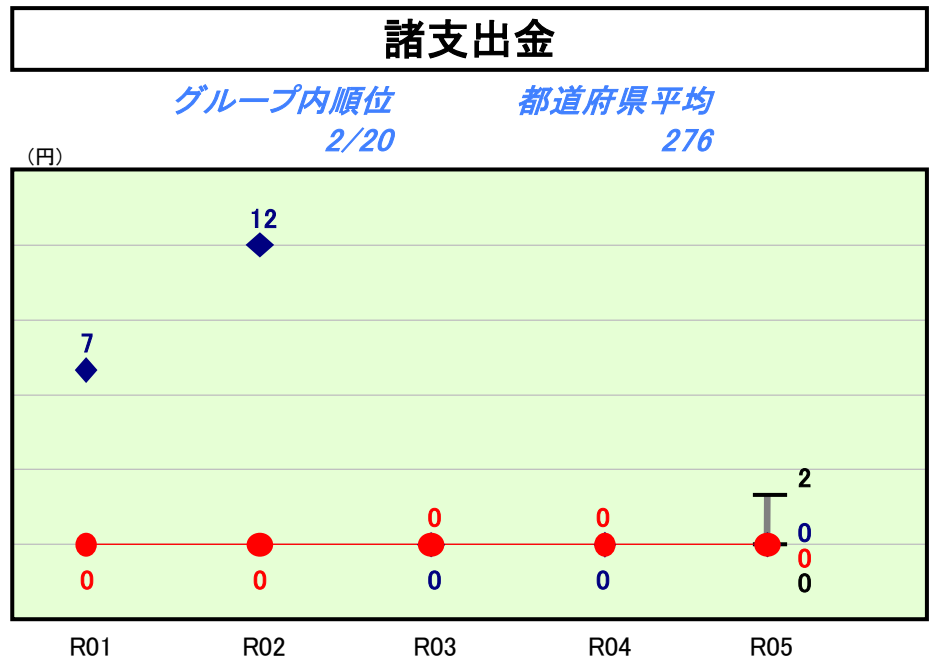
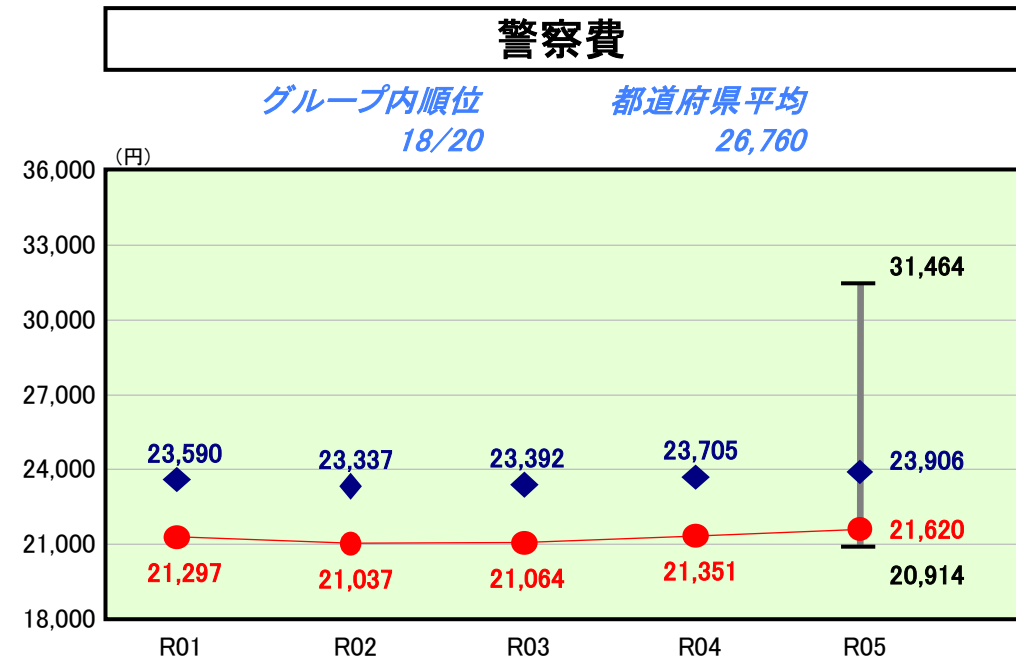
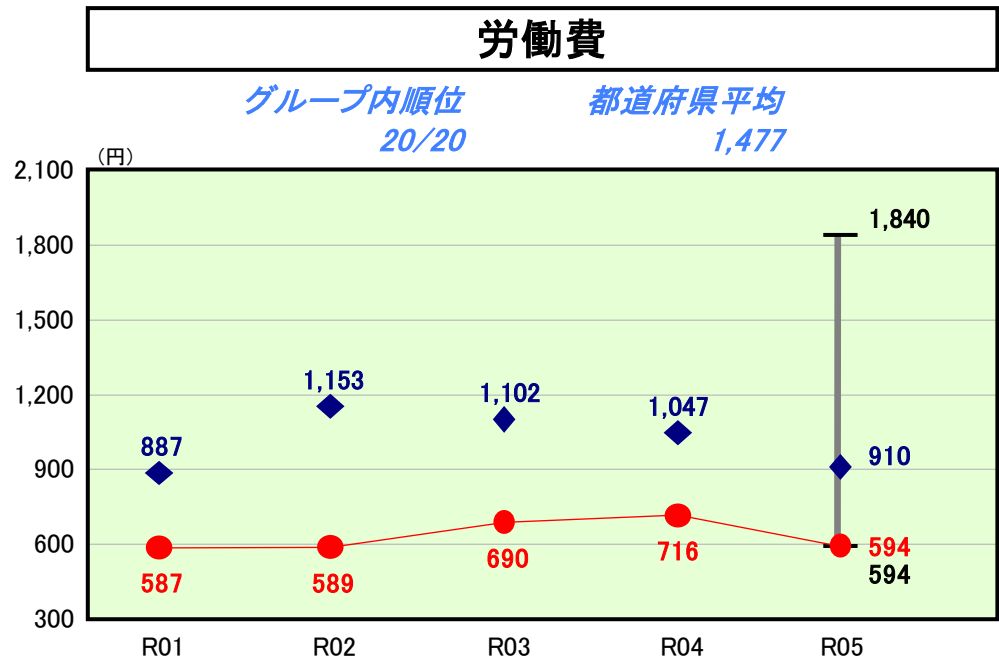
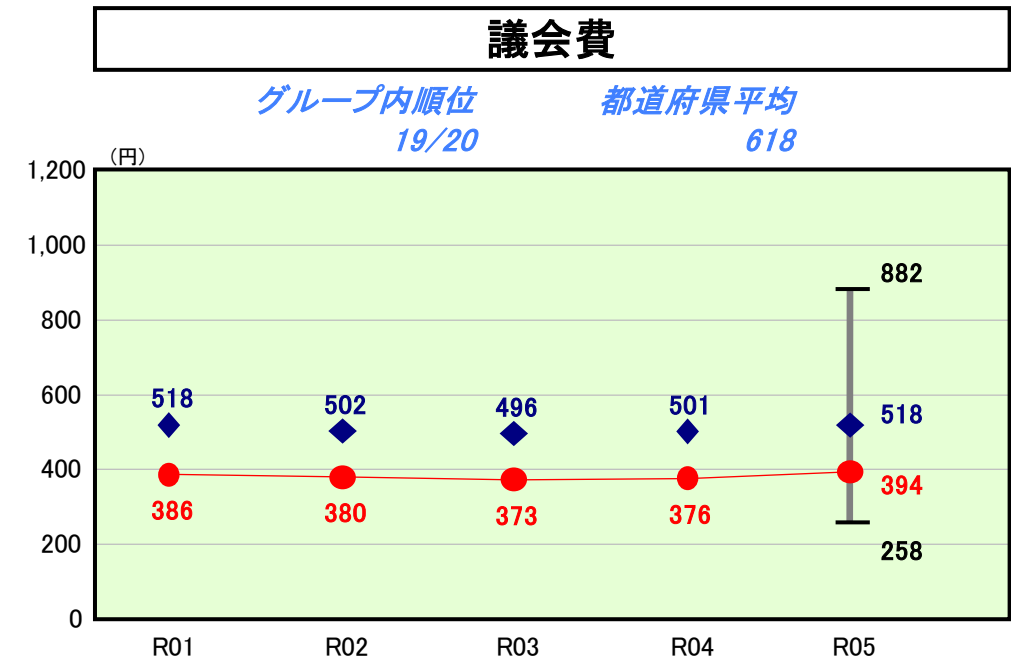
人口	9,208,688人(R6.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	8,948,525人(R6.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	2,416.32km ²	実質公債比率	8.9%
歳入総額	2,251,237,949千円	将来負担比率	64.0%
歳出総額	2,207,423,640千円	グループ	R01 B R02 B R03 B
実質収支	22,937,841千円	(年度毎)	R04 B R05 B
標準財政規模	1,414,177,145千円		
地方債現在高	3,073,437,909千円		



※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕

※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和5年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



目的別歳出の分析欄

民生費は、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。子ども施策の拡充や高齢化等により社会保障関係費の増は依然として続いているものの、令和5年度は、生活福祉貸付制度における緊急小口資金等の特例貸付期間延長終了に伴う事業費の減や、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金返納金の減などにより減少している。

衛生費は、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に伴う感染症病床確保支援事業費の減などにより減少している。

商工費は、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に伴う感染症拡大防止協力金事業費の減などにより減少している。

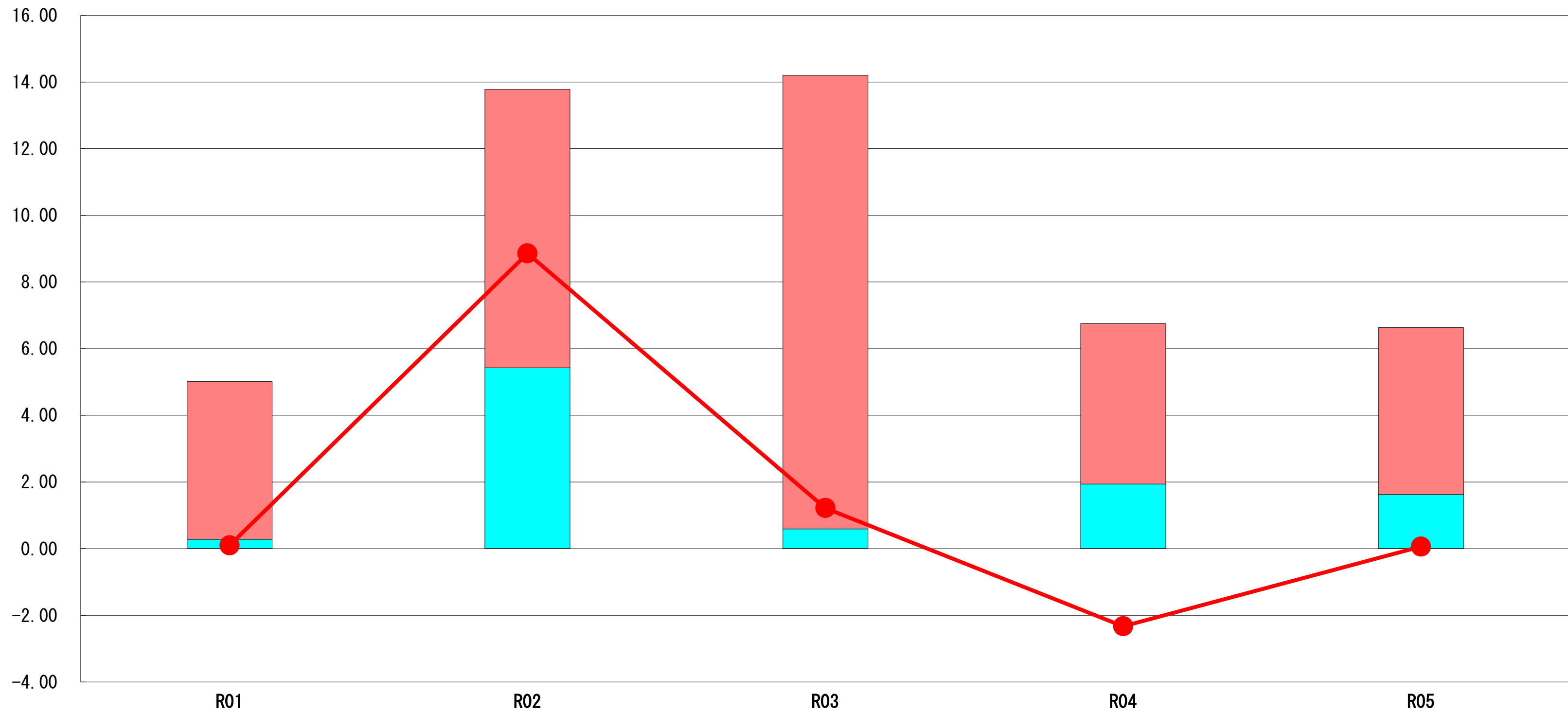
公債費は、過去に発行した県債の償還がピークを越えたこと等により減少した。また、県債発行の適正化に取り組んでおり、グループ内平均と比較して低い水準で推移している。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）

令和5年度

神奈川県

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

区分	年度	R01	R02	R03	R04	R05
財政調整基金残高		4.73	8.35	13.61	4.81	5.01
実質収支額		0.28	5.43	0.59	1.94	1.62
実質単年度収支		0.10	8.86	1.22	▲ 2.33	0.06

分析欄

実質収支額は、税収の増などにより引き続き黒字を確保しており、新型コロナウイルス感染症対策緊急包括支援交付金の不用額（国への返済未納額）等による特殊要因があった令和2年度、4年度を除くと例年に比べて大きくなっている。

財政調整基金残高は、本県の残高の目安である標準財政規模の5％程度となっており、引き続き計画的な積立に努めていく。

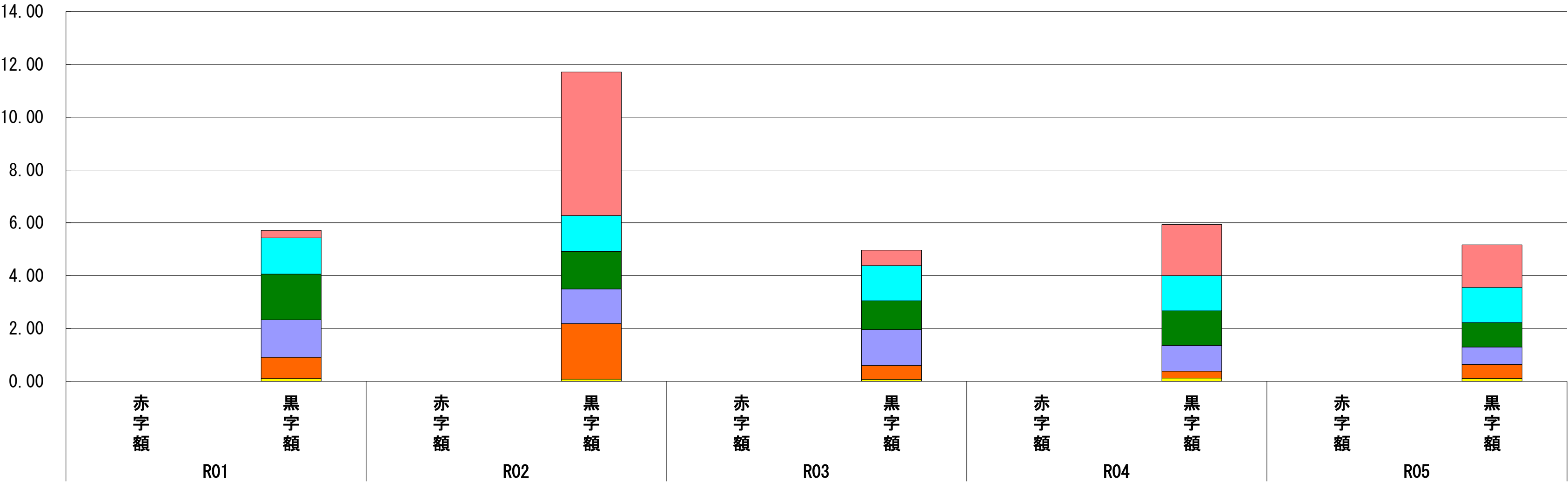
実質単年度収支は、令和4年度は、財源対策として財政調整基金を取り崩したため、マイナスとなっているが、令和5年度は取り崩さなかったため、改善した。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

令和5年度

神奈川県

標準財政規模比（％）



年度		標準財政規模比（％）				
会計		R01	R02	R03	R04	R05
一般会計		0.28	5.43	0.58	1.94	1.62
電気事業会計		1.37	1.37	1.33	1.33	1.33
公営企業資金等運用事業会計		1.73	1.41	1.09	1.31	0.92
水道事業会計		1.42	1.32	1.36	0.98	0.66
国民健康保険事業会計		0.81	2.10	0.53	0.26	0.53
流域下水道事業会計		0.10	0.08	0.07	0.12	0.11
公債管理特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
公営競技収益配分金等管理会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

分析欄

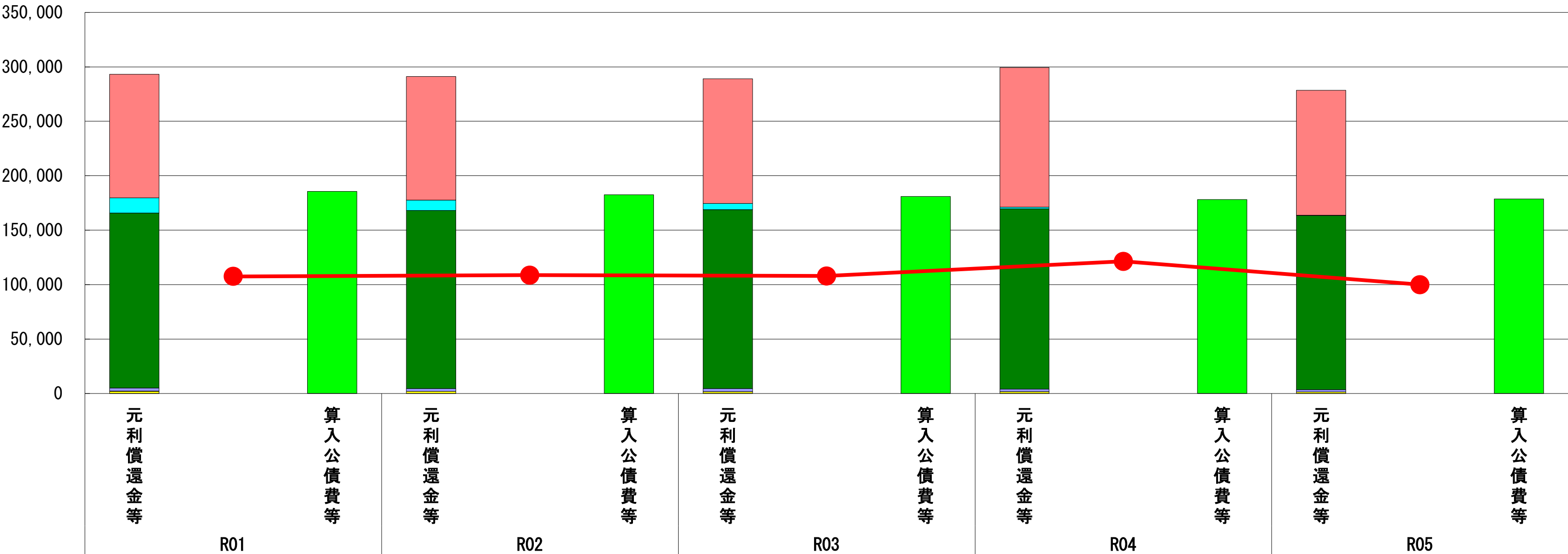
一般会計及び特別会計の実質収支は黒字である。また、公営事業会計においても、全ての会計で資金不足が生じていないため、連結実質赤字比率は該当がない。
今後も引き続き、慎重な財政運営に努めていく。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

令和5年度

神奈川県

（百万円）



（百万円）

分子の構造		年度	R01	R02	R03	R04	R05
元利償還金等 (A)	元利償還金		113, 647	113, 654	114, 398	128, 234	114, 897
	減債基金積立不足算定額※		13, 968	9, 509	5, 802	1, 674	264
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		160, 551	163, 477	164, 235	165, 609	159, 880
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2, 945	2, 657	2, 766	2, 331	2, 072
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		139	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		2, 009	1, 882	1, 772	1, 651	1, 434
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		185, 692	182, 433	181, 093	178, 096	178, 534
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		107, 567	108, 746	107, 880	121, 403	100, 013

分析欄

元利償還金については、新型コロナウイルス感染症拡大により徴収猶予された税収対応のために発行された猶予特例債の償還が令和4年度をもって終了したため、減少している。

今後、中長期的には県債残高や公債費は、減少していくことが見込まれるものの、老朽化した県有施設の更新や長寿命化、災害に強い施設整備等を進めていく必要があるため、引き続き、県債管理に係る良好な状態を維持しつつ、県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めている。

※ 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D) / (E))

（参考）

（百万円）

		年度	R01	R02	R03	R04	R05
減債基金 積立状況等（注）	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額 (C)		130, 099	129, 330	110, 822	113, 617	81, 725
	前年度末減債基金残高 (D)		681, 710	721, 789	764, 009	846, 166	903, 019
	前年度末減債基金積立相当額 (E)		763, 706	779, 070	806, 215	858, 822	905, 942

分析欄

減債基金積立相当額の積立ルールが30年償還で毎年度の積立額を発行額の30分の1として設定しているのに対して、本県では10年債及び20年債の新規発行及び借替債発行において3年の据え置き期間を設定していたため、減債基金残高と減債基金積立相当額に乖離が生じている。

なお、本県では、令和3年度より減債基金積立の据え置き期間を3年から1年に変更したことにより、この乖離は今後も縮小していく見込みである。

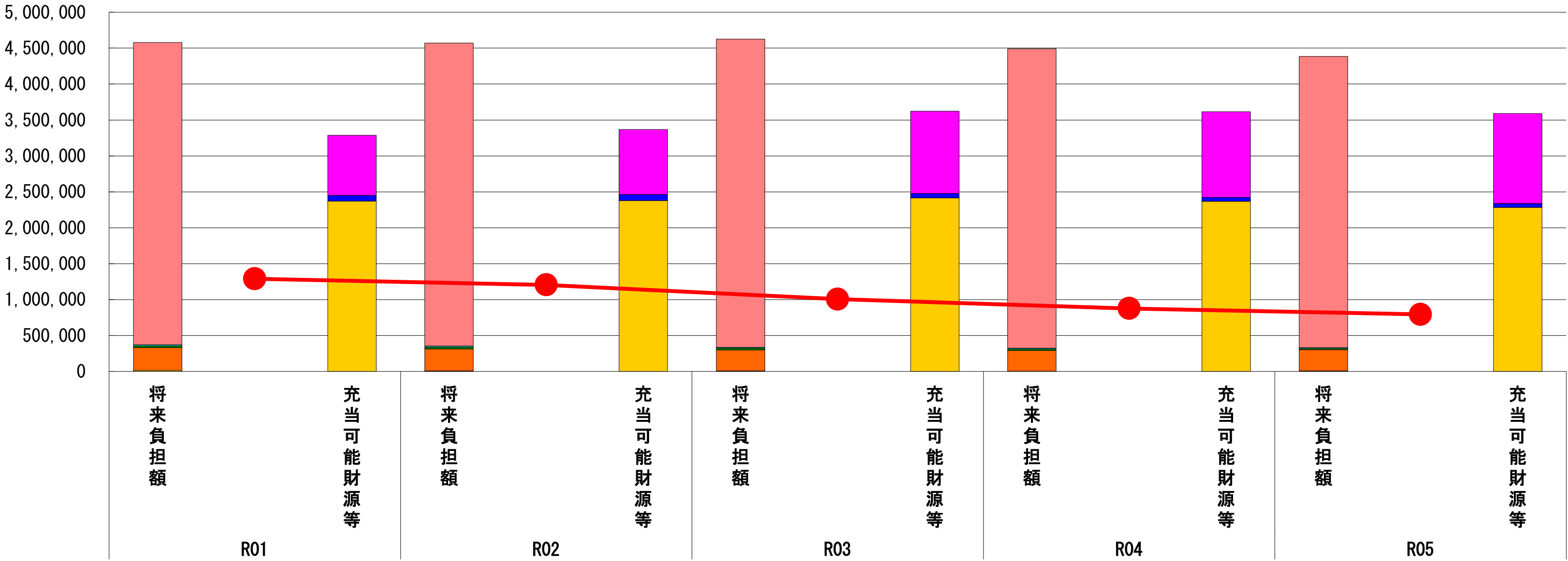
（注）減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和5年度

神奈川県

（百万円）



（百万円）

分子の構造		年度	R01	R02	R03	R04	R05
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		4,204,958	4,218,760	4,291,815	4,167,509	4,052,570
	債務負担行為に基づく支出予定額		15,194	13,651	12,181	10,797	9,608
	公営企業債等繰入見込額		26,268	24,849	23,446	22,268	21,215
	組合等負担等見込額		—	—	—	—	—
	退職手当負担見込額		316,339	305,565	294,462	287,020	294,859
	設立法人等の負債額等負担見込額		14,088	7,608	5,012	3,803	5,869
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		—	—	—	—	—
	連結実質赤字額		—	—	—	—	—
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		—	—	—	—	—
	充当可能基金		836,506	903,767	1,144,679	1,193,529	1,252,411
	充当可能特定歳入		80,376	83,608	62,518	56,446	53,997
(A) — (B)	基準財政需要額算入見込額		2,370,658	2,378,330	2,414,209	2,366,407	2,283,419
	将来負担比率の分子		1,289,308	1,204,728	1,005,509	875,014	794,293

分析欄

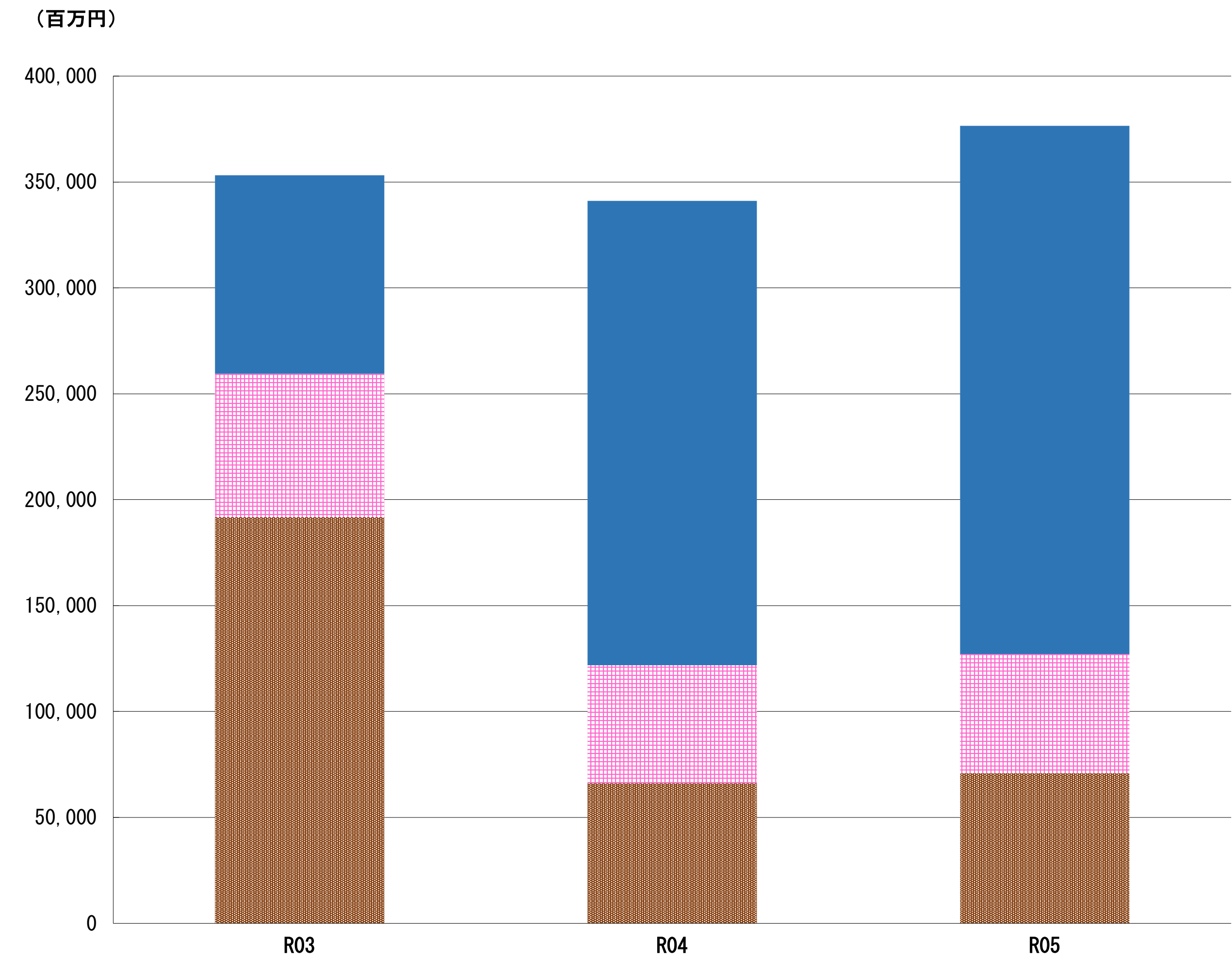
過去に発行した県債の償還が進んでいること等により、一般会計等に係る地方債の現在高が減少している。

加えて、普通交付税の後年度精算に備えた交付税精算基金への積立や、地方公務員の定年引上げの影響により一時的に増加する退職手当の確保のための退職手当基金を新たに創設したこと等により、充当可能基金が増加している。

以上の要因により、将来負担比率の分子は減少している。

充当可能基金は、後年度の基金活用により減少する可能性もあることから、今後も県債の適切な管理を行うことで健全な財政運営に努めていく。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）



		(百万円)		
区分	年度	R03	R04	R05
財政調整基金		191,705	66,185	70,892
減債基金		67,782	55,706	56,174
その他特定目的基金	その他特定目的基金	93,767	219,257	249,523
	交付税精算基金	－	84,600	87,200
	公共用施設等基金	12,000	34,700	26,977
	地域医療介護総合確保基金	12,084	14,965	18,536
	国庫支出金返納基金	11,527	4,177	17,491
	退職手当基金	－	－	17,100
基金残高合計		353,254	341,147	376,589

令和5年度	神奈川県
-------	------

基金全体 (増減理由) ・ 3 年度末残高は、財政調整基金の増（＋809億円）、減債基金の増（＋642億円）等により、基金全体で 2 年度末残高より1,625億円増加。 ・ 4 年度末残高は、減債基金の減（△121億円）等により、基金全体で 3 年度末残高より121億円減少。 ・ 5 年度末残高は、退職手当基金の新設（＋171億円）、国庫支出金返納基金（＋133億円）等により、基金全体で 4 年度末残高より354億円増加。 (今後の方針) ・ 財政調整基金については、不測の事態で生じる財政需要へも対応できるよう一定規模の積立は必要であるため、将来への備えとして残高の確保に努めていく。 - また、特定目的基金については、各基金の目的に従って適正な管理・運用を行っていく。
財政調整基金 (増減理由) ・ 3 年度に交付された普通交付税の後年度精算に備えた積立（751億円）等による増（＋809億円）。（3 年度） ※ 3 年度末残高は1,917億円あるが、交付税精算分750億円（4 ～ 6 年度に取崩しを予定）、4 年度の財源対策活用分547億円（4 年度当初予算時点で取崩しを予定）を除いた実質残高は620億円。 ・ 4 年度の財源対策としての取崩（△547億円）や交付税精算分の特定目的基金への移行（△750億円）等による減（△1,255億円）。（4 年度） ・ 4 年度決算剰余金の法定積立等による増（＋47億円）。（5 年度） (今後の方針) ・ 本県では、過去に2,000億円規模の税收減を経験していることから、こうした不測の事態に備えて、県単独で行っている福祉、医療など、県民生活に直結する事業に影響を及ぼさないよう、標準財政規模の 5 %（6 年度：約724億円）を目安とした積立に努めていく。
減債基金 (増減理由) ・ 3 年度に追加交付された普通交付税（臨時財政対策債償還基金費）の一部の積立（392億円）及び県債償還額の平準化に備えた積立（250億円）による増（＋642億円）。（3 年度） ・ 臨時財政対策債償還基金費（97億円）や県債償還額の平準化に備えた積立（24億円）の取崩し等による減（△121億円）。（4 年度） ・ 県債償還額の平準化に備えた積立（97億円）の取崩し等による減。臨時財政対策債償還基金費の積立（105億円）による増（＋5億円）。（5 年度） (今後の方針) ・ 将来の償還に備え、必要に応じて積み立てていく。
その他特定目的基金 (基金の使途) ・ 交付税精算基金：法人事業税等の収入実績に0.75を乗じた額が当該税目の基準財政収入額より多いことにより生じる普通交付税の過大交付額の後年度精算への補填 ・ 公共用施設等基金：公共用施設等の老朽化対策等のための財源の安定的な確保 ・ 地域医療介護総合確保基金：医療及び介護の総合的な確保のための医療機関・公的介護施設の整備、居宅等における医療の提供、医療従事者・介護従事者の確保 ・ 国庫支出金返納基金：新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の国への返納分に係る年度を越えた管理 ・ 退職手当基金：地方公務員の定年引上げの影響により、翌年度以降一時的に増加する退職手当の確保 (増減理由) ・ 国庫支出金返納基金：6 年度に国への返納予定額を積み立てたことによる増（＋133億円） ・ 退職手当基金：基金の新設による増（＋171億円） (今後の方針) 各基金の目的に従い適正な管理・運営を行っていく。 ・ 交付税精算基金：交付税精算（交付翌年度から 3 年間に分けて精算）にあわせて取崩しを予定。 ・ 公共用施設等基金：3 年度に積立した120億円は、6 ～10年度に取崩しを予定。 4 年度に積立した227億円は、6 ～11年度に取崩しを予定。 ・ 地域医療介護総合確保基金：本県が作成した計画に基づき、医療機関・公的介護施設の整備など当該基金を活用し事業を推進。 ・ 国庫支出金返納基金：5 年度に積立した175億円は、6 年度に取崩しを予定。 ・ 退職手当基金：5 年度に積立した171億円は、6 年度に取崩しを予定。